

Honda の社会活動

2008



Together for Tomorrow



CONTENTS



01 CONTENTS

02 ごあいさつ

03 夢のある明日の社会づくりをめざして

05 世界の各地で、人々の喜びにつながる活動をすすめています

07 子ども達の育成支援活動

08 NYPUM

09 環境わごん

11 ツインリンクもてぎの学習施設

12 Honda「発見・体験学習」

13 子どもアイデアコンテスト

14 学生フォーミュラ支援/ドリームハンズ/学校環境奨励賞/イーグル・ロック・スクール

15 東京箱根間往復大学駅伝競走/全国高等専門学校ロボットコンテスト

16 大分国際車いすマラソン大会/DREAM CUP ソーラーカーレース鈴鹿/

全国中学生創造ものづくり教育フェア/Hondaエコノパワー燃費競技全国大会/
熱気球ホンダグランプリ

17 地球環境を守る活動

18 ビッグ・ダービー・クリーク保全活動

19 Hondaビーチクリーン活動

21 国内「水源の森」保全活動

22 「ふるさとの森」づくり

23 中国砂漠植林「喜びの森」計画

24 スプリングクリーク保全活動/Hondaツリーファンド

25 交通安全の教育・普及活動

26 交通安全キャラバン

27 (財)国際交通安全学会(IATSS)/安全運転普及活動

28 ファーマー安全運転コンテスト

29 地域に根ざした活動

30 タッチ・ザ・ワールド&大使館訪問

31 障がいのある人の雇用を促進する特例子会社

33 国内Hondaグループの社会活動

事業所の活動

38 グループ会社の活動

39 販売会社の活動

41 海外Hondaグループの社会活動

51 Hondaの寄付・支援活動/本田技研労働組合(本田労組)の活動

52 財団の活動

53 グループ全体の活動一覧

二輪販売会社/四輪販売会社/グループ会社/海外グループ会社

ごあいさつ

「こんなものがあれば、誰もがもっと楽しくなるだろう。
もっとワクワク、ドキドキできるに違いない」
—— そんな、一人ひとりが抱いている夢を、ともに
追いつけていく。そして夢を描き、カタチにしよう
とする時、そこには大きな力が生まれます。私たち
Hondaは、夢を原動力に、製品づくりや企業活動の
分野でも、新しい感動と喜びを世界中の人々とともに
分かちあっています。

本レポートは、私たちが世界の各地で展開している
さまざまな活動を、そこに関わる人々の想いや喜びに
焦点をあてながらご報告しています。ぜひご一読いた
だき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

Hondaは、これからも社会の一員として、世界の
各地域に深く根づいて人々と喜びを共有し、喜びを
次世代につなげていくために、世界の各地でHonda
ならではの活動を展開していきたいと考えています。
夢のある明日の社会づくりをめざして。

取締役社長 福井 威夫

夢のある明日の社会づくりをめざして

Hondaは社会活動を通して 人々と喜びを分かちあってきました

Hondaは創業以来、商品や技術を通じて、社会やお客様に喜びを提供してきました。また、「企業は地域に根つき、地域と融合した存在でなければならない」という考えのもと、1960年代から地域とのつながりを大切に社会活動を開始しました。事業領域が広がり、グローバル化が進んだ1970年代には、さまざまな分野の研究や教育、文化交流などを支援する財団や基金を設立。1980年代は国内だけでなく海外にも財団・基金を設立しました。創立50周年を迎えた1998年には、地球的視野で社会の期待に応えるために、専門部署である社会活動推進室を設置し、社会活動理念を制定しました。さらに2006年には、より積極的に人々の喜びにつながる活動をすすめていくため、グローバルな社会活動の活動方針とシンボルマークを制定。これからもHondaグループ全体で、人々と喜びを分かちあう活動をすすめていきます。

Honda 社会活動の歩み

1948年(創業)～

商品・技術で、社会に貢献

1960年代～

地域との共生をめざした活動を展開

○工場見学受入れ、体育館・グラウンドなどの施設開放、スポーツ教室開催、
地域住民招待の夏祭りなど開始 ○鈴鹿サーキット完成 ○NYPUM設立(米)

1970年代～

財団・基金を設立して、社会に貢献
環境保全活動を開始

○ふるさとの森づくりや地域の河川・道路などの清掃活動開始 ○安全運転普及本部発足
○(財)国際交通安全学会設立 ○(財)本田財団設立

1980年代～

海外にも、財団・基金を設立

○ベルギーホンダ基金設立(ベルギー) ○ホンダ太陽(株)設立
○ホンダオプアメリカマニュファクチュアリング財団設立(米)
○アメリカンホンダ財団設立(米)

1990年代～

専任組織を設置し、社会活動理念を制定(1998年)

○イーグル・ロック・スクール設立(米) ○ボランティア休暇・離職制度制定
○社会活動推進室設置 ○学生フォーミュラ支援開始 ○国内森林保全活動開始
○交通安全キャラバン開始 ○タッチ・ザ・ワールド開始 ○学校環境奨励賞開始(タイ)

2000年代～

グローバル活動方針(2006年制定)に基づいた
社会活動を世界各地で展開

○社会活動連絡協議会発足 ○中国砂漠植林活動開始 ○環境わごん開始
○子どもアイデアコンテスト開始 ○Honda「発見・体験学習」開始 ○ドリームハンズ開始
○Hondaピーチクリーン活動開始 ○ザ・ドリーム・ファクトリー開始(英)

Together for Tomorrow



Together for Tomorrow

このシンボルマークは、みんなで力を合わせ、夢のある明日の社会づくりをめざすというHondaの社会活動の考え方を表しています。子ども達の育成支援活動、地球環境を守る活動、交通安全の教育・普及活動、そして地域に根ざした活動を中心に、世界のHondaグループが夢のある明日の社会づくりに向けた活動を展開しています。

Honda 社会活動の めざすもの

Hondaの企業理念である「人間尊重」と「三つの喜び」を基本に、企業市民としての活動を通じて世界中の人々と喜びを分かちあい、その存在を期待される企業になること

活動理念

- 地球的視野に立ち、「商品・技術」を通じて社会に貢献する
- 良き企業市民として地域に根付き、社会的責任を果たす
- 次世代のために、心豊かで活力のある人と社会づくりに努める

活動方針

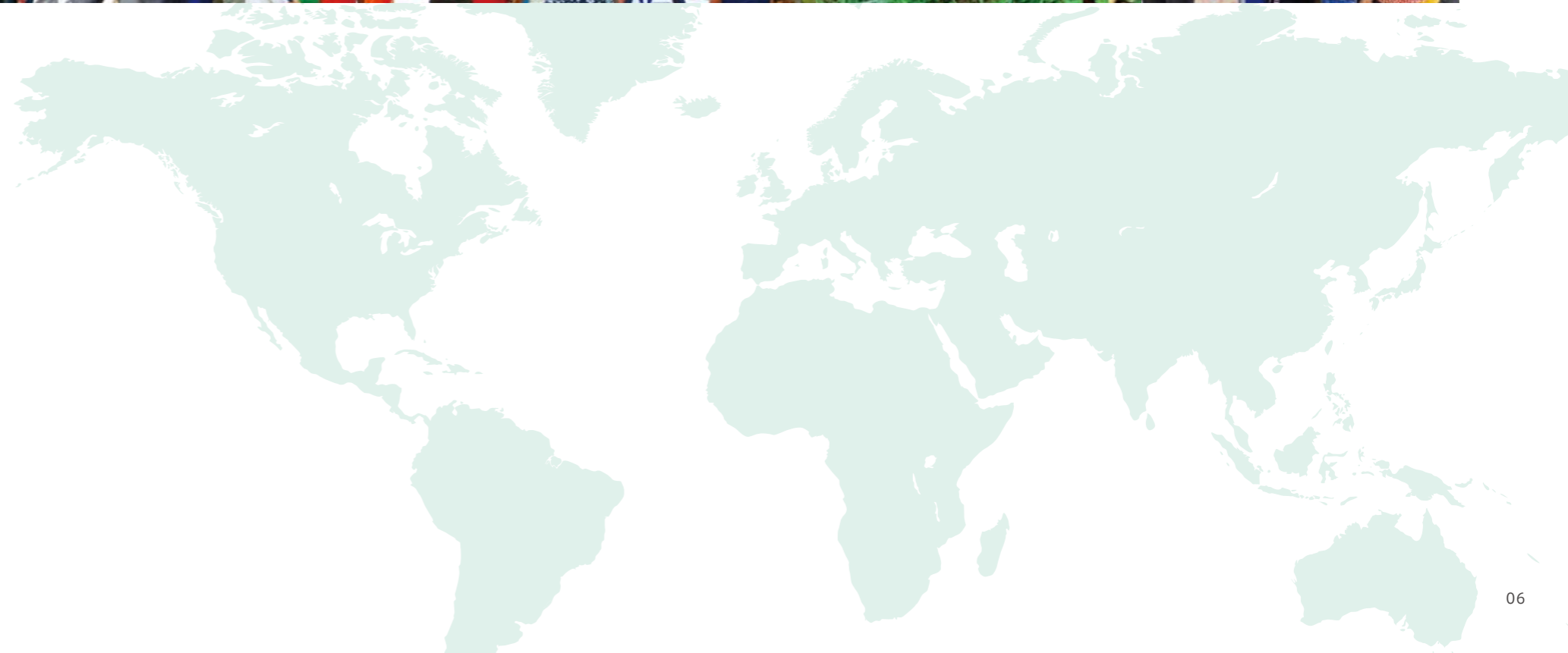
Hondaは、夢のある明日の社会づくりをめざして、

- 未来を創る子どもの育成支援活動を行います
- 地球環境を守る活動を行います
- 交通安全の教育・普及活動を行います

世界の各地で、人々の喜びにつながる活動をすすめています



「需要のあるところで生産する」という考えのもと、
Hondaは、現地オペレーションの自立化を積極的にすすめています。
社会活動の領域においても、グローバルな活動方針のもと、
その地域の実情にあわせた取り組みを積極的に展開。
世界中のHondaが、その資源である
「人」、「商品・技術」、「人間尊重の文化や風土」を活かして、
それぞれの地域で暮らす人々の喜びにつながる活動をすすめています。



子ども達の育成支援活動

未来を創る子ども達の夢と創造力を育みたい。

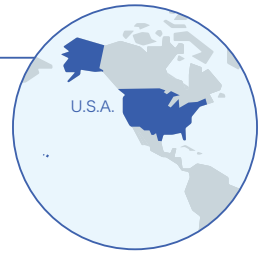
夢を原動力として歩んできたHondaは、
夢を持つこと、夢に挑戦することの楽しさや素晴らしさを
子ども達に伝えることができるような活動に、
力を入れて取り組んでいます。



Together for Tomorrow



ミニバイクを生かしたアメリカの青少年支援プロジェクト



NYPUM (National Youth Project Using Minibikes)

アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド/American Honda Motor Co., Inc.

目標を達成することが ミニバイクを楽しむ喜びへ

ミニバイクがきっかけで人生が変わる——。これこそが、ナショナル・ユース・プロジェクト・ユージング・ミニバイクス (NYPUM) の素晴らしさです。NYPUMは、従来の課外活動や支援サービスにはなじめない子ども達に、バイクに乗ることを中心とした屋外活動を通じて、喜びや関心を引き出すという画期的でユニークなプログラムを提供する、子ども達の教育支援プロジェクト。1969年のNYPUM設立時から、Hondaは合計1万台のミニバイクの寄贈と、資金提供を行っています。

NYPUMでは、子ども達は広々とした屋外でミニバイクに乗る喜びにふれることができます。指導するのは信頼関係を築いた大人達。二輪車安全基金 (Motorcycle Safety Foundation) のガイドラインに準拠した適切な安全運転指導を受けます。ミニバイクに乗る時間を得るためには、環境活動や地域活動への参加が必要で、子ども達はその中で責任感やリーダーシップを身につけていきます。設立以来、39年間で約25万名の子ども達がNYPUMに参加。その間、Hondaはこの活動への協力を続け、合計4,000万ドル相当のミニバイクの寄贈と資金提供を行いました。資金は、NYPUM事務局の運営や、スタッフ訓練、プログラム内容向上のための視察、NYPUM



史上初の「2007年NYPUM全国会議」などの特別イベント助成のために使われています。また、各プログラムはHonda正規販売店のサポートも得ています。

子ども達同士の交流がある 「NYPUMロデオ」

NYPUMのプログラムの中でも特にユニークなのが、「NYPUMロデオ」です。3～4日間に渡るこの特別イベントでは、アメリカ各地のNYPUM参加者が一堂に会し、新たな友達に出会い、フェアプレイ精神や民族・文化的多様性にふれ、楽しい時間を過ごします。子ども達は、自分と同じ問題を抱えている仲間存在に気づき、孤独感から解放され、他者への理解や感謝の気持ちを育てていくのです。

アメリカの地域社会と 結びついたNYPUM

NYPUMのプログラムの特徴は、子ども達が正しい判断ができるように導き、サポートすることです。「ミニバイクを動機づけのツールとして活用し、問題を抱えるアメリカの子ども達に、自尊心、揺るぎない価値観、責任感を身につける機会を提供する」という使命を果たすことをめざして、現在、大都市、都市近郊、農村地域など、アメリカのさまざまな地域で40を超えるプログラムを展開しています。NYPUMへの支援は、アメリカの地域社会との結びつきを強めるため、Hondaが最も古くから行っている取り組みのひとつです。現在も、Hondaはアメリカの子ども達とともに、明るい未来に向けて成長を続けています。

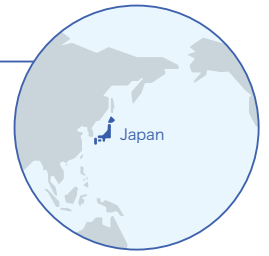


地域の環境保全活動に参加

「エンブレイシング・ザ・レガシー賞」受賞

Hondaは、NYPUMへの支援を通じて問題を抱える子ども達の生活向上に貢献したことを評価され、ロバート・F・ケネディ・チルドレンズ・アクション・コープスの「エンブレイシング・ザ・レガシー賞」を企業として初めて受賞しました。この賞は、故ロバート・F・ケネディ上院議員が

思い描いた「より良い未来」の実現への貢献を称え、広めるために設立。子ども達やその家族のために地域社会の連携強化、子ども達への直接的なサービスや支援の提供、また、子ども達に悪影響を与える社会の不正の改善に尽力する個人または団体に授与されています。



環境わごん



環境わごん
あなたの街で海と山に出会える



自然素材にふれながら学ぶ 環境への気づきのプログラム

木や草、花などの植物、海の水、川の石……。身の周りの自然を観察してみると、いろいろな不思議に出会えます。子ども達は、自然の素材にふれることを通じて、そうした不思議を発見し、自然や環境について自分なりに感じながら考えるようになるのです。このような気づきの場を提供するために生まれたのが「環境わごん」です。Hondaのワゴン車に海や山などの自然素材を積み込み、小学校や公民館などに掛けて行く

出前型の環境学習プログラムで、自然の仕組みや環境保全の大切さを伝えるレクチャーと、自然の素材を使ったクラフトなどの組み合わせで構成されています。子ども

達をサポートするのはHondaのOBボランティアスタッフ。環境の話やプログラムを通して、子ども達の自主性を引き出すお手伝いをします。



浜松製作所では300回以上 6年に渡って活動

2008年2月1日、この環境わごんを浜松市立浅間小学校の3年生134名と先生方が体験。Honda浜松製作所のOBボランティア23名が、運営スタッフとして参加しました。今回のプログラムは、松ぼっくり・どん

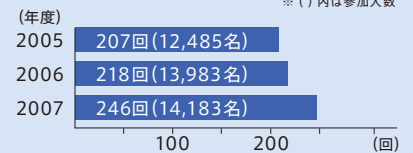


ぐり・間伐材・流木などを使ったネイチャークラフトを通じて、木や森の役割を知り、環境保全の大切さに気付いてもらう「森の夢工房」です。はじめに環境のレクチャーがあり、全部スタッフの手づくりというパネルを使いながら説明していきます。次に安全な道具の使い方が説明され、クラフトが始まります。この時に使う自然素材も、OBボランティアが自ら採ってきたものです。のこぎりやキリなど安全管理が必要な作業については、OBボランティアが手本を見せ



ながらすすめます。しかし、全体を通して、あくまでも子ども達の自主性を尊重し、スタッフはサポート役に徹します。子ども達はそれぞれ、創造性に満ちた作品を仕上げていきました。最後に、この体験の感想とともに、エコバッグの利用や電気の節約など、家でも環境を守るためにできることについても発表してもらいました。今後も、Hondaは全国の事業所の周辺地域で、自然の仕組みや大切さを伝える環境わごんを展開していきます。

●開催実績



●2007年度内訳

事業所	開催回数	参加人数
埼玉	49回	3,767名
鈴鹿	73回	3,310名
浜松	59回	4,333名
熊本	28回	984名
栃木	37回	1,789名
計	246回	14,183名

OBボランティア
スタッフの

声

子ども達から受けるパワーが
活動を続けていく原動力に

浜松のOBボランティアスタッフの話では、環境レクチャーで「はじめは本の引用のままに、子どもがまだ習っていない“%”を使った話をしてしまった」など、試行錯誤の連続だったと言います。それでも、「子どもが孫のように相手をしてくれる。パワーをもらえる」「ありがとう、また来てねという子ども達の言葉がうれしい」という思いから活動を続けています。



浜松製作所
OBボランティアスタッフの皆さん

先生の
声

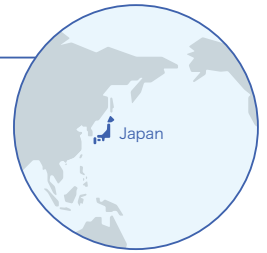
「自然のものに興味津々で、
普段より子ども達がいきいきとしていました」

子ども達を見守りながら、いっしょに環境わごんに参加していただいた浜松市立浅間小学校の先生方。「ぜんぜん子ども達が飽きていない。これをやったら、次はあれとどんどん考えがふくらんでいるみたい」「接着テープも使っていいと言われていたのに、自然のものですつくりたくないんだよねって、子どもなりにこの授業の意味を受け止めていました」「木っていいな。でもその木がどんどん少なくなっている。それってなぜ?と考えるきっかけになれば」と普段とは違う子ども達のいきいきとした姿と成長に驚いていました。



浜松市立浅間小学校3学年担当
縣由美子先生
渡邊伸子学年主任
尾上敏子先生
(左から)

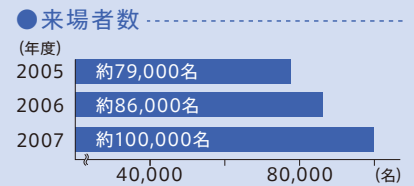
ツインリンクもてぎの学習施設



「気づくチカラ」と「感性」を育てる 里山のフィールド「ハローウッズ」



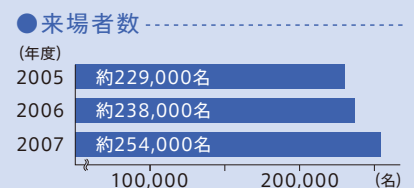
「ハローウッズ」は、栃木県茂木町のツインリンクもてぎの中にある、豊かな里山の自然に囲まれた施設です。人の手入れによって里山を元気にすること、子ども達の「気づくチカラ」や「しなやかな感性」を育むことを目的に、2000年7月にオープンしました。42ヘクタールの森の中には、植物や昆虫などを観察できる自然フィールドをはじめ、クラフトを楽しめる工房や研修室などがあります。ハローウッズのプログラムは、まず子ども達に自然に興味を持ってもらうことからスタート。自然と楽しく関わりあうことが「気づくチカラ」につながり、自然の溢れる生命力を自ら体験することが、新たな「発見」や「感動」のきっかけとなるからです。そしてここでの経験が、一人ひとりが自然や環境のことを自ら考え、行動するための一歩になることを願っています。

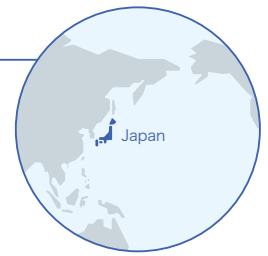


未来の夢を創り体感する 「ファンファンラボ」



モビリティやモノづくりの楽しさを体感してもらい、子ども達の「夢のチカラ」を育む「ファンファンラボ」。Hondaが開発した人間型ロボットASIMOが動く仕組みや開発の歴史を紹介し、ロボットと暮らす未来の夢を描くASIMOゾーン。次世代のクリーンエネルギーやモビリティについて、楽しみながら知識や関心を高めるエコラボ。そしてさまざまな素材を用いて自由な発想で、モノづくりの楽しさを体感できるドリームスタジオなど、館内は多彩なテーマが分かりやすいプログラムで紹介されている5つのゾーンで構成されています。子ども達がいろいろな疑問の答えを、知る、発見する、感じることで、健やかに成長していくために必要な自発性、創造性、社会性を育み、伸ばしていけるプログラム構成になっています。





Honda「発見・体験学習」

体験をもとにして話し合い 本格的にプレゼンテーション



Honda「発見・体験学習」

Honda「発見・体験学習」は、Hondaが企業活動の現場で培ってきた手法や実例をもとに開発した、中高生の「想像力」と「創造力」を養う2泊3日の滞在型探求学習プログラムです。1日目、子ども達はツインリンクもてぎ内の施設でさまざまな体験をします。その後、約10名のチームに分かれ、チームごとに探求テーマを決めます。2日目は、チームごとに各施設を自由に回り、探求テーマに沿った情報を集めます。そして、体験で各々が得た「気づき」「発見」を議論しながら未来創造の提案をまとめ上げます。3日目は、プロジェクターやマイクを使い、作成した資料を全員の前で発表します。3日間という短い期間ですが、この過程を通して、子ども達の中でさらに想像力と創造力が養われていくのです。



子どもの自主性を大切にしながら LAがさり気なくサポート

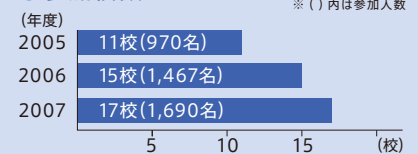
チームの情報収集や、資料作成・編集時に子ども達の議論やコミュニケーションを活発にし、持っている能力を引き出すサポートをするのが、LAと呼ばれるラーニングアドバイザーです。各チームにこのLAが1人ずつ付いて、子ども達をサポートすることが、Honda「発見・体験学習」の大きな特徴です。学校とは違った3日間のプログラムの中で、子ども達が潜在的な創造力や、自分自身の変化などに気付くことができます。



●プログラムの流れ



●参加校数



スタッフの

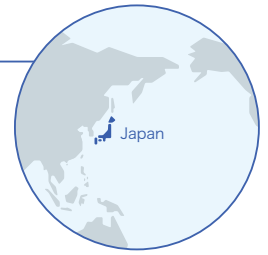
声

「議論の答えを出すのは、
すべて子ども達です」

「私たちラーニングアドバイザーは、子ども達に答えを与えたり、議論を主導したりすることはありません」という中島さん。「発言の少ない子どもには発言しやすい環境をつくらせたり、議論が停滞した時にヒントを投げかけるだけです」「あくまで答えを出すのは子ども達」と自主性に基づいた学習が行われています。



ラーニングアドバイザー
中島千尋さん



子どもアイデアコンテスト



夢、挑戦、創造、そして交流

未来に“あったらいいな”と思うモノのアイデアを、画用紙に描いてもらい、子ども達に夢みる楽しさやつくる喜びを伝える「子どもアイデアコンテスト」。第6回目を迎えた2007年度は、全国の小学生から5,147作品もの応募がありました。その中から一次審査を通過した32組35名の子ども達には、実際の作品づくりに取り組んでもらい、最終審査会で発表してもらいました。試行錯誤を繰り返し完成させた作品を、大勢の人前で一生懸命に発表する子ども達。入賞してもしなくても、彼らは、最後までやり遂げた達成感と貴重な体験を手に入れました。最優秀賞と優秀賞を受賞した子ども達の学校には、特別授業にASIMOが訪問してくれるという嬉しいプレゼントも。また、最終審査会にはタイで開催された「Honda ASIMOスーパーアイデアコンテスト[※]」の入賞者を招き、交流イベントも行いました。文化や習慣は違っても、夢見ることは楽しいと感じる気持ちに変わりはないようです。

※アジアホンダモーターが2005年からタイ国内の小学生を対象に開催しています。



● コンテストの流れ



● 参加実績

(年度)	参加組数	参加人数
2005	4,011組	(4,500名)
2006	3,414組	(3,700名)
2007	5,147組	(5,750名)

※ () 内は参加人数



タイのコンテストの入賞者を招きました

審査員の声

浅井 慎平さん

写真家
第2回大会から
審査員長をつとめる



「入選入賞の皆さん、おめでとうございます。また、残念ながら入賞できなかった子ども達も、最後まで審査に残ったことは大事だと思います。また、自分達の『未来』はどのようになるのか、自分達の力で良い『未来』になるように頑張ってもらいたい。明日に向かって希望を持ち、参加したことについて誇りを持ってもらいたいです。」

「子ども達の発想には驚かされるばかりです。今回で得た達成感や満足感が今後の子ども達の大きな成長に繋がると信じています。」

伊達 公子さん

テニスプレーヤー
第4回大会から
審査員をつとめる



「学校の勉強とは全然違うこと。でもこれも勉強。やってみよう!というあきらめない想いはきっと何かの形になりますよ。」

かおかおパンダさん

アーティスト(壁画など)
第5回大会から
審査員をつとめる



将来の優れた技術者を育てるために

学生フォーミュラ支援

「全日本学生フォーミュラ大会」は、将来の優秀なエンジニアを育成するために、(社)自動車技術会が開催している競技会です。学生達はチームを組み、1年間でフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを設計・製作。性能だけでなく、企画力やコストの考え方、プレゼンテーション能力までをトータルで競い合うものです。Hondaはこの大会に協賛するとともに、HondaのOBボランティア「マイスタークラブ」のメンバーが講師となり、クルマづくりの基礎から溶接や加工などの実技、さらにエンジンや足回りのセッティングなどを教える「学生フォーミュラ チャレンジ講座」を開催し、学生達にモノづくりの厳しさやおもしろさ、喜びを伝えています。



つくる楽しさ、ひろげたい

ドリームハンズ



自分の手でモノをつくり上げる楽しさ・喜びを子ども達に体験してほしい。そんな思いを込めて、事業所のある地域の公民館やイベント会場等で「ドリームハンズ」を展開しています。ドリームハンズは、Hondaオリジナルのダンボールクラフトなどを使い気軽に楽しみながら体験できる、モノづくりの入門プログラム。子ども達をサポートするのは、Hondaの従業員やOBのボランティアスタッフです。このプログラムへの参加をきっかけに、子ども達に「つくる楽しさ」を感じてほしいと願っています。



子ども達から地域社会へ、環境改善の輪を広げる

学校環境奨励賞

アジアホンダモーターカンパニー・リミテッドおよびタイのHondaグループ会社 / Asian Honda Motor Co., Ltd. and the Honda Group Companies in Thailand

1999年、タイのHondaグループは、国王72歳の誕生日を祝い、主要な環境NGOおよび政府機関と協力して、子ども達が環境を損なうことなく持続できる開発についての計画を提案する「学校環境奨励賞」を、タイ全土の全小中学校を対象に開始しました。優秀な提案をした学校は、Hondaから資金援助を受けて計画に取り組み、最も優れた成果を修めた学校に国王賞「キングス・カップ」が授与されます。Hondaグループがこれまでに資金援助した学校は600校を超え、この活動を通して地域社会と自然環境の調和に貢献しています。



排水・ゴミ・エネルギー問題に総合的に取り組み、2007年に第4回のキングス・カップ受賞校となったサ校

自分を見つけ、夢を見つける学校

イーグル・ロック・スクール

アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド / American Honda Motor Co., Inc.

アメリカはロッキー山脈のふもと、コロラド国立公園に囲まれた「イーグル・ロック・スクール」。この授業料のかからない全寮制の学校は、既存の高校になじめなかった生徒、人生を変えたいと強く望む生徒達を受入れています。また、このような生徒達をどのようにサポートしたらよいか、その方法を学びたいと望む教育関係者にとっての教育研究施設でもあります。重要なのは、どのように成長したかを生徒自身が記録し、表現し、観察していくこと。授業や共同生活を通じて、生徒達は夢を描き、努力することの大切さを学んでいきます。



まず自分自身を知り、どのような夢を持ち、何を学びたいかに焦点を合わせて授業内容を設計

「第84回東京箱根間往復大学駅伝競走」協賛

開催日:2008年1月2日・3日

若者の育成支援と、学生スポーツの振興に寄与することを目的に2003年度からこの大会に協賛しています。2007年度は、大会本部や運営用に燃料電池車FCXをはじめ、計27台の車両を提供しました。また、グループ会社であるレインボーモータースクールの教習指導員がボランティアで運営管理車のドライバーを務めたほか、メンテナンスチームなど約60名のスタッフが大会運営をサポート。往路ゴール付近ではHondaブースを設け、従業員ボランティアが応援する方々にあたたかい豚汁を配りました。沿道では販売店の協力のもと店舗を開放し、トイレの提供や飲み物のサービスを行うなど、大会の盛り上げに寄与しました。



● 支援実績

年度	提供車両数	スタッフ数
2005	27台	約60名
2006	27台	約60名
2007	27台	約60名

従業員 ボランティアの 声

「今回、初めて運営ボランティアに応募・参加しました。皆で、一つの夢、目標に向かって一生懸命に頑張っているランナーを間近で観て、とても感動しました。惜しくもリタイアしてしまった大学、優勝した大学などすべてのチームに、来年も頑張してほしいと思います。来年の駅伝が今から楽しみです。」



安全運転普及本部
高橋 弥生

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2007」特別協賛

<地区大会>開催日:2007年10月7日~11月4日の毎週日曜日 開催場所:全国8ブロックの各会場
<全国大会>開催日:2007年11月25日 開催場所:東京・両国国技館

「全国高等専門学校ロボットコンテスト」は全国62の高等専門学校がアイデアを駆使しながらロボットを製作し、その成果を競います。Hondaは、発想すること、それをカタチにするこの楽しさを実感できるこの大会に2002年度より特別協賛。大会運営の一環として従業員が審査員として参加するほかASIMOを派遣するとともに、特別賞を授与して学生達のモノづくりへの挑戦を応援しています。



従業員 スタッフの 声

「このコンテストは、自分達で考えて設計したロボットを作り上げ、みんなの前で競うもので、学生にとっては、夢や構想を現実化させる良い機会だと思います。また、苦労して作ったロボットが思い通りに動かない、という厳しさを実感することもあります。Honda(審査員)としては、競技の勝ち負けよりも、他にないアイデアを使ったかどうかを評価してあげたいですね。」



本田技術研究所
主任研究員
飯田 哲生



「第27回大分国際車いすマラソン大会」協賛

開催日:2007年10月28日 開催場所:大分県庁~大分市宮陸上競技場

1981年の国際障がい者年を記念して、世界で初めて“車いすだけのマラソンの国際大会”としてスタートした「大分国際車いすマラソン大会」。以来、毎年開催されるようになり、現在では世界最大級の車いすマラソン大会に成長しています。Hondaは、この大会に1990年より協賛。グループ会社の従業員も選手として参加しています。また、障がいのある人達へのスポーツ支援の一環として、Hondaの従業員やホンダ学園の学生など約50名がボランティアで大会運営に協力しました。



FIA ALTERNATIVE ENERGIES CUP

「DREAM CUP ソーラーカーレース鈴鹿2007」特別協賛

開催日:2007年8月3日~5日 開催場所:鈴鹿サーキット

Hondaは、次世代に向けた価値あるモノづくり支援のひとつとして、鈴鹿サーキットを舞台に行われる世界最高峰のソーラーカーレースに、1998年より特別協賛しています。2007年は、海外チームを含む計81チームが出場。優勝チームには、「夢・チャレンジングスピリット」を表現したHondaトロフィーを贈呈しました。大会開催中は、子どもから大人まで幅広い人達に、モノづくりの楽しさを肌で感じてもらおうと、電動小型カート組立て教室やダンボールクラフト教室をはじめ、さまざまなサブイベントを行っています。



「第8回全国中学生創造ものづくり教育フェア」特別協賛

開催日:2008年1月26日・27日 開催場所:つくば国際会議場

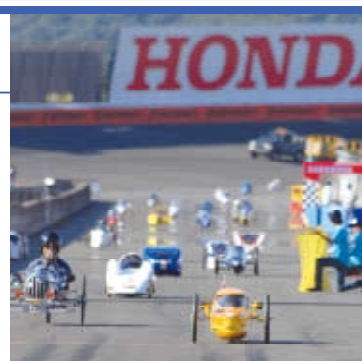
このイベントは、ロボットコンテストや作品展を通じて、全国の中学生に創作の喜びや関心を抱いてもらうために開催されました。Hondaはモノづくりを通じた子ども達の育成支援という観点からこのイベントに特別協賛し、ASIMOのデモンストレーションなどツインリンクもてぎとともに大会運営に協力。Hondaブースでは、クラフトや組立て教室とともにモノづくりの取り組みを紹介するパネル展示なども行いました。



「本田宗一郎杯Hondaエコノパワー燃費競技全国大会」

開催日:2007年10月6日・7日 開催場所:ツインリンクもてぎ

「1ℓのガソリンでどこまで走れるか」。技術とアイデアを駆使したマシンで燃費の限界に挑戦するこの競技会には、学校や職場の仲間、家族などで構成されたチームが多数参加します。限りある地球資源をいかに活用して走るかという点でも注目を集めています。2007年は、447チーム、約2,300名が参加して、本田技術研究所の有志で構成されたチーム「水曜クラブ」が2,851.501km/ℓを記録し、2年連続で最優秀賞(本田宗一郎杯)を受賞しました。



「2007熱気球ホンダグランプリ」特別協賛

開催日:2007年4月6日~11月25日

「熱気球ホンダグランプリ」は、広く一般に熱気球への理解と関心を深めてもらうために始まった競技会で、飛ぶ人にも見る人にも大きな驚きと感動を与えています。Hondaは熱気球運営機構(AirB)と協力して、子ども達の夢を育むこの大会を支援しています。



地球環境を守る活動

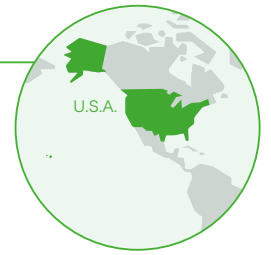
Hondaは、製品の研究開発から生産、購買、輸送、販売、廃棄、さらにオフィスにいたる企業活動のすべての過程において、環境保全に全力で取り組んでいます。

社会活動の領域においても、地域社会と自然との共生をテーマに、地球的視野に立った活動を積極的に展開しています。



Together for Tomorrow





ビッグ・ダービー・クリーク保全活動

ホンダオブアメリカマニュファクチャリング・インコーポレーテッド/Honda of America Manufacturing, Inc.

ザ・ネイチャー・コンサーバンシーと協力して自然豊かな水流地を守る

アメリカ・オハイオ州で、非営利の自然保護団体ザ・ネイチャー・コンサーバンシーと協力し、Hondaは自社の関連施設周辺の水流地の保全活動を行っています。メアリーズビルとイーストリバティにあるホンダオブアメリカマニュファクチャリングの四輪車・二輪車の生産拠点は、州の景観を代表する水流地であり、ザ・ネイチャー・コンサーバンシーが「残された素晴らしい自然環境」のひとつとして保全に取り組むビッグ・ダービー・クリークの源流に隣接しています。

また、ビッグ・ダービー・クリークは、多くのオハイオ州住民が利用する飲料水の水源の一部であるとともに、この清涼な水で多くの植物や動物が育まれています。100種類以上の魚、絶滅の危機に瀕している稀少な38種を含む44種類のイシガイが生息。アメリカ中西部で、最も多様な生態系を保有する水流地のひとつです。しかし、汚染や、人工的な水流変化のため、この源流が誇る豊かな自然は危機に瀕しています。Hondaはザ・ネイチャー・コンサーバンシーに協力し、用地取得、水質管理、調査、教育、環境回復などの環境保全活動を行っています。



環境保護地区の設立協力やスイカズラの除去を実施

湿地と水流地の環境を保全し回復させることは、Hondaの生産拠点で重視している取り組みのひとつです。Hondaは30万ドルをザ・ネイチャー・コンサーバンシーに提供し、800エーカー(約3.2km²)の「ビッグ・ダービー・クリーク環境保護地区」設立のための用地取得に協力しました。2008年には、人々と動植物にとっての水源の重要性を伝えるため、環境保護地区と遊歩道が一般公開されています。さらに、ボランティア活動への参加を促進する社内プログラム「ホンダヒーロー」の一環として、メアリーズビル四輪車工場付近の新

たな通りで、Hondaの従業員は茂り過ぎたスイカズラの撤去作業に参加。ザ・ネイチャー・コンサーバンシーのボランティア・コーディネーターであるバーバラ・ローガン・パタチャルヤさんによると、「スイカズラのように繁殖力の強い植物は、周りの動植物の生息環境にダメージを与える」と言います。2007年10月13日、スイカズラの撤去に従業員9名が参加しましたが、Hondaはこの活動を10年間サポートし続けています。北米にあるHondaの各生産拠点は12,000エーカー(約48.5km²)以上に渡る土地を占めており、環境保全が必要な地域も多数含まれています。Hondaに実りをもたらしてくれる大地。この大地を守ってゆく努力を、Hondaは続けています。



Hondaビーチクリーン活動



実施前



実施後

独自開発のビーチクリーナーで キャラバン隊が砂浜を清掃

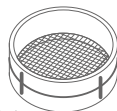
「きれいな砂浜を次世代に残したい」という思いから開発が始まったHondaのビーチクリーナー。試行錯誤を繰り返して独自の技術で完成した牽引式ビーチクリーナーと

四輪バギーを使い、2006年から本格的に「Hondaビーチクリーン活動」が始まりました。従業員やOBのボランティアスタッフで編成されたキャラバン隊が、地域の自治体の要請に基づいて全国の砂浜を回り、2007年度は19ヵ所の砂浜を清掃しました。

また、11月に宮崎県新富町の富田浜で行われたビーチクリーン活動では、地元拠点に置く(株)ホンダロックとの協働で活動が行われ、従業員ボランティア69名が参加。Hondaは、今後も各地域でHondaグループが連携した活動を推進していきます。



熊手の構造を応用した
サンドレーキ



フルイの構造を応用した
サンドスクリーン



木片、網、ロープなど大きなゴミはサンドレーキで取り、吸い殻、ガラス片など小さなゴミはサンドスクリーンで回収

グループ会社の従業員も 積極的に参加

また、2007年度はキャラバン隊の活動を、Hondaのグループ会社との協働で展開することも始めました。2007年10月、静岡県磐田市の福田浅羽海岸では、Honda浜松製作所の従業員ボランティア30名とともに、グループ会社である(株)ショーワの従業員ボランティア20名が参加しました。



Honda全体で連携して 活動をさらに全国へ

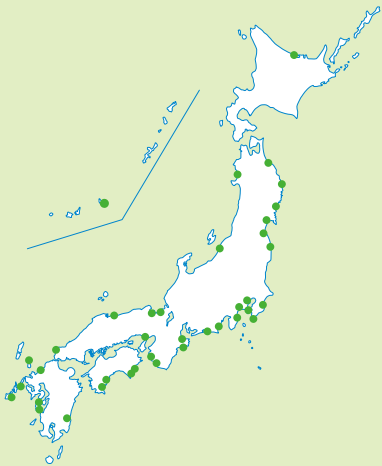
さらに、2007年度は全国9カ所の自治体へ、四輪バギーとビーチクリーナーのセットを貸出しました。これは、地域の自治体が行う海岸清掃活動をより効率的に推進してもらい、1カ所でも多く素足で歩ける砂浜を次世代に残したい、という思いから始めたもので、Hondaは機材の貸出しだけでなく、安全運転講習の実施や指導、機材のメンテナンスなど継続的な支援を行っていきます。

今後も、地域の自治体を中心に、Hondaの事業所やグループ会社が連携した活動を展開し、Hondaならではの海岸清掃活動を全国に広げていきます。

●活動実績

2006年度
ビーチクリーンキャラバン隊の活動実績
19カ所（19回）

2007年度
ビーチクリーンキャラバン隊の活動実績
19カ所（20回）
グループ会社協働 2社
自治体への機材貸出し 9カ所



自治体の方々の 声

千葉県館山市

「ビーチクリーンの活動を継続して、
地元や行政と一緒に砂浜をきれいにしてほしい」

「正直言って、びっくりしました。ビーチクリーナーを掛け終わったあとは、砂浜が白くなって、そのうえフカフカ。思わず自分でも砂浜に飛び込みたくなるぐらいキレイでした」と語ってくれたのは、Hondaのビーチクリーナーで砂浜の清掃活動を展開している館山市役所の川名さん。「今の活動をずっと継続して、地元や行政と一緒に頑張って砂浜をきれいにさせていただけたらと思います」との声もいただきました。



館山市役所 商工観光課
川名茂樹さん

自治体の方々の 声

和歌山県白浜町

「町の人や観光客の方からいただく、
はげましの言葉がうれしいですね」

和歌山県白浜町で砂浜の清掃を担当している田中さんは、Hondaのビーチクリーナーを使って、「埋まっているゴミまで取っていくので、パウダー状のサラサラした砂になり、すごいなぁという印象でした」と感想を語ってくれました。町の人や観光客の方からの評判もよく、活動中には「ビーチクリーンをしているから、白良浜はキレイなんです。これからも頑張ってください」と声を掛けられることもあり、「それが何よりもうれしいですね」と話していただきました。



白浜町役場 観光課
田中健介さん





国内「水源の森」保全活動

源流にある森に 本来の力をとり戻す活動

私達が使う水は、山から海へと続く川によってもたらされます。源流にある森林は、長い時間をかけて水を蓄え、川の豊かな流れを支えるとともに、きれいな空気をつくったり、地盤を安定させることで災害の発生を防ぐという役割も担っています。Hondaは、この大切な「水源の森」を未来へ引き継いでいくために、全国の事業所で、従業員・OBとその家族のボランティアによる森林保全活動を積極的に行っています。

埼玉県寄居町で 「水源の森」保全活動がスタート

Hondaは、新しい生産工場の建設が予定されている埼玉県寄居町の用度地区にある鐘撞堂山から連なる里山(町有林)で、新たな森林保全活動を始めました。

これは、Hondaと寄居町、埼玉県中央部森林組合、(財)オイスカが協働ですすめるもので、Hondaは資金援助のほか、和光地区や周辺事業所の従業員ボランティアが、植林や下草刈りなどの森林保全活動を行います。

2007年6月の第1回には、従業員とその家族34名のボランティアが参加し、森林組合の指導のもと、谷津山東南の傾斜地に広葉樹の苗木300本を植林。その後、森林保全のレクチャーでは活発な意見交換がなされ、参加した従業員も森林の役割・必要性を再認識しました。

9月の第2回には、従業員やOB、その家族のボランティア24名が参加し、6月に植えた苗木の周りに生い茂った雑草などの下草刈りを行いました。

今後もHondaは全国の事業所周辺にある水源の森8カ所の保全活動を継続的に実施していきます。

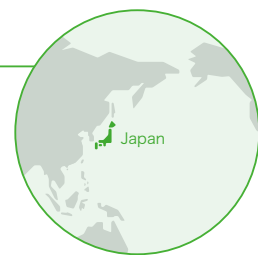


●活動地域



●2007年度活動実績

事業所	開催回数	参加人数
青山	2回	55名
和光	2回	58名
埼玉	3回	160名
鈴鹿	2回	98名
浜松	1回	25名
熊本	3回	169名
栃木	2回	91名
計	15回	656名



「ふるさとの森」づくり

全国にあるHondaの各事業所周辺を、コンクリートの壁で囲んでしまうのではなく、その土地固有の樹木を植えて、自然のままに育てる「ふるさとの森」づくり。本来の生態系を活かした自然を回復させ、維持する、という自然の仕組みに基づいた緑化活動を1976年からすすめています。

地域コミュニケーションを取り入れた浜松製作所の取り組み

浜松製作所では、「ふるさとの森」づくりに地域コミュニケーションの観点を加え、自然とふれあい、親しみながら、環境や自然保護の大切さを体験する場を地域の方々に提供。子ども達が見学・体験できる環境学習エリアを設け、自然環境についての新しい発見や気づきを促し、自主性を培う場にしていきたいと考えています。



●ゲートエリア

「ふるさとの森」の入口。さまざまな草花や樹木などで、浜松の里を表現しています。



●環境エリア

浜松製作所が行っている廃水処理、臭気対策など、環境対応の考え方や取り組みをパネルで紹介。



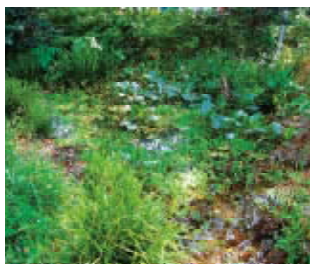
●水辺エリア

里山の小川や池をイメージし、水辺にすむ生き物を中心に生態系を整え、ホタルやメダカをはじめ、豊かな水辺の生態系を観察することができます。また、池や小川で遊ぶ体験もできます。



●昆虫エリア

浜松の里山にある雑木林をイメージし、昆虫が多く生息できるように環境を整えています。カブトムシ、クワガタムシ、バッタ、チョウなど、さまざまな昆虫がすむ森や草むらといった里山の生態系を知ることができるエリアです。





中国砂漠植林「喜びの森」計画

地元の人々と協力して 緑化の喜びを広げる

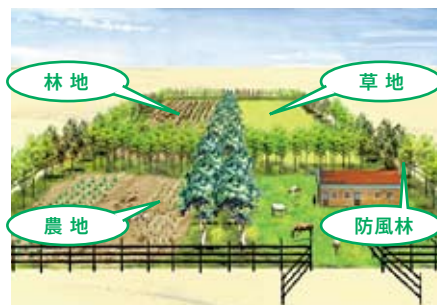
過剰な放牧や開墾などのため、急速に砂漠化が進んでいた中国・内蒙古自治区のホルチン沙漠。日本から最も近いこの砂漠をもとの緑豊かな大地に甦らせたい。地元の人々が自らの手で緑化に取り組み、自給的な生活を送れるようにしたい。そんな思いで2000年から始まった「喜びの森」計画。Hondaの従業員やOBのボランティアが、ホルチン沙漠を訪れ、地元の小中学生と交流しながら植林をすすめることで、緑化の大切さを一緒に考えてきました。

8年間で植えた木々は8万本を超え、最初の年に植えたポプラは7~8mにもなりました。開始以来、喜びの森の視察や問い合わせも年々増え続け、緑化活動の輪は近隣地域に大きく広がっています。

2007年、喜びの森は中国政府から73戸の地域住民に分割譲渡され、今後は地元の人々が自主管理しながら森林農場の完成をめざして緑化をすすめます。これに伴い、日本からのボランティアツアーは終了し、今後は資金援助などで側面から支援を継続していきます。



森林農場のイメージ図



地元中学生との植林

●活動実績

年度	日本からのボランティアツアー		ツアーおよび現地での植林合計本数
	回数	参加人数	
2005	2回	69名	2,820本
2006	2回	69名	11,379本
2007	2回	106名	2,171本

稀少生物の生息環境を守る

スプリングクリーク保全活動

ホンダカナダ・インコーポレーテッド/Honda Canada, Inc.

スプリングクリークは、カナダ・オンタリオ州アリントンにあるホンダカナダの生産工場敷地内を流れる小川です。この小川や周辺地域には、カワマスなど環境に敏感な川魚や鳥など、さまざまな生物が生息しているのですが、近年、ルリツグミのように外来種により生息環境が脅かされ、個体数が減少している種もあります。こうした稀少生物の生息環境を守るためにもスプリングクリーク周辺の自然保護が大切であると考え、2000年から保全活動を行っています。毎年5月の第1土曜日をスプリングクリーク・クリーンアップデーと定め、2007年には従業員とその家族75名がボランティアで参加し、小川周辺の清掃活動などを行いました。

活動をスタートして以来、スプリングクリークおよびその流域で、さまざまな環境保全・美化活動に取り組んでいます。小川周辺のゴミ拾いや、数百本の高木と数千本の低木を植えるなどの活動を行うことで、多種多様な生物の生息環境を築き、

土壌浸食を防ぐのに役立っています。ほかにも、ルリツグミの生息環境を保護するために、巣箱を設置し、ルリツグミの小径

をつくりました。ホンダカナダでは、今後も地域に根ざした環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。



人とクルマと緑をつなぐ

Hondaツリーファンド

ホンダニュージーランド・リミテッド/Honda New Zealand Ltd.



「Hondaツリーファンド」は、Hondaの新車を1台販売するごとに、ニュージーランド原産の苗木10本分の資金を提供する植林基金です。2004年に設立し、森林の土壌の浸食と保水力低下の防止、河川や海岸の保護、公園の緑化を通して、生物の多様性に満ちた生態系を取り戻すのに役立てられています。ツリーファンドでは、2007年度は78,471本、これまでの4年間で約329,000本の苗木に相当する植林資金を提供しました。こうした資金は、ホンダニュージーランドが積み立てるだけではありません。Hondaのクルマを買っていただいたお客様からも、ツリー

ファンドへの寄付を募っています。さらに興味のある方には、ニュージーランドのHonda従業員と地域議会が共同で行う植林活動への参加をすすめるなど、少しずつ緑化活動の輪を広げています。

ツリーファンドの仕組み



新車1台を販売



苗木10本分の資金を提供



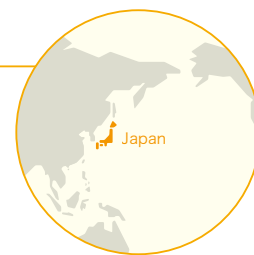
交通安全の教育・普及活動

Hondaは、ハード、ソフトの両面から交通安全を推進しています。
先進技術を活用しながら、クルマに乗っていない人の安全も
視野に入れた商品づくりに取り組むとともに、
地域社会のニーズにあわせた交通安全の教育と安全運転の普及活動を通じて、
より豊かなモビリティ社会の実現をめざしています。



Together for Tomorrow





交通安全キャラバン

幼い子ども達のための交通安全教室

Hondaは、より豊かなモビリティ社会の実現をめざし、さまざまな取り組みを行っています。中でも子ども達を交通事故から守ることは、重要なテーマのひとつです。Hondaは、人間形成に大きな影響を与える幼児期から交通安全の基本を身につけてもらうことが大切であると考え、1999年に未就学児を対象とした「交通安全キャラバン」をスタートさせました。関東地区から始まった活動は、2003年に鈴鹿、浜松、翌年には熊本、栃木の事業所周辺でも開始。年々、訪問園数を増やし、2007年度は641の幼稚園・保育園を訪問しました。

見て、聞いて、話して、体験するプログラム

交通安全キャラバンの特徴は、トレーニングを積んだ俳優が進行役をつとめ、子ども達を飽きさせないさまざまな工夫がされていること。プログラムはまず、名作絵本を子ども達に読み聞かせすることから始まります。さまざまな声と迫力満点の演技で子ども達はどんどん物語の世界へ。集中力が高まったところで、Hondaオリジナルの教材「あやとりい ひよこ編[※]」を使った交通安全のお話に移ります。ただ話して聞かせるのではなく、クイズなどで対話しながら子ども達から答えを引き出すよう進行。何度も復唱し、身振り手振りの動作も加えて交通ルールを覚えたあとは、ミニチュアの信号機と横断歩道を使って、実際に横断してもらいます。こうした一連のプログラムにより、子ども達は楽しみながら交通ルールを体で覚えることができます。

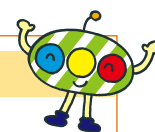
※「あやとりい ひよこ編」は、「あんぜんを」「やさしく」「ときあかし」「りかいしていただく」、4～5歳児が対象の交通安全教育プログラムです。

交通安全キャラバン



プログラム構成

- 1 名作絵本の読み聞かせて、集中力アップ
- 2 「あやとりい ひよこ編」を使って、交通安全のお話
- 3 ミニチュアを使って、体験学習



● 活動実績 -----

(年度)	訪問園数	参加人数
2005	340園 (46,186名)	
2006	590園 (76,329名)	
2007	641園 (76,401名)	

※()内は参加人数

● 2007年度内訳 -----

事業所	訪問園数	参加人数
本社	480園	58,251名
鈴鹿	40園	3,964名
浜松	40園	4,860名
熊本	41園	4,566名
栃木	40園	4,760名
計	641園	76,401名

(財) 国際交通安全学会

IATSS (International Association of Traffic and Safety Sciences)

(財)国際交通安全学会(IATSS)は、交通社会の課題や将来のあり方について社会的視野に立ち、自由に討議・研究する場として1974年にHondaの創業者・本田宗一郎、藤沢武夫両氏およびHondaの基金をもとに設立されました。さまざまな分野のトップに立つ有識者を会員・顧問に迎え、「交通とその安全」、さらにはそれらを取り巻く地域社会に関する調査研究を実施。研究報告会の開催や政策提言、広報出版、交通社会の発展に寄与した業績に対する褒賞、国際交流など、時代の要請に先がけた事業活動を展開しています。

1985年に設立された「IATSSフォーラム」は、将来のASEAN諸国の発展に貢献できる若者を招請し、“Thinking and Learning Together”をモットーに、広く社会全般の文化や日本について学んでもらう国際交流

プログラムです。各種セミナーやフィールドワーク、地域国際交流など幅広い分野の講座や活動を行い、参加研修生が互いにASEAN諸国について理解し、ASEANと日本の現在の課題に取り組む場を提供しています。



IATSSフォーラム

交通に関わるすべての人の安全のために

安全運転普及活動

Hondaは、より豊かなモビリティ社会の実現に向け、1970年に安全運転普及本部を設置し、運転する人はもちろん、歩行者や自転車利用者などすべての人を対象にした教育・啓発活動や、交通安全教育ソフトや各種シミュレーターの研究開発と提供など、さまざまな活動に取り組んでいます。

全国8ヵ所にある交通教育センターでは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方を対象にした交通安全教育を実施。さらに、安全運転指導者の養成や、企業・団体向けの研修会も展開しています。2007年8月には、交通安全を取り巻く環境の変化やお客様のさまざまなニーズに対応するため、鈴鹿サーキット交通教育センターが生まれ変わりました。多発型・致死率の高い事故の減少に焦点をあてること、気づきによって行動変化を促すことなどの特徴を備えた、新しい4つの教育プログラム

を追加。研修コースを改修して、より効果的・実践的な研修ができるようになりました。また、危険予測能力や、車の新しい安全デバイスの効果と限界を正しく理解していただくことを目的とした、新しい教育プログラムの研究・開発や、交通安全に関する、生涯教育の地域への普及にも力を注いでいます。そして、お客様や地域の方々に安全運転を伝える活動は、海外33カ国にも広がっています。



新しくなった研修コース



● 全国8ヵ所の交通教育センター

- ・ アクティブセーフティ トレーニングパークもてぎ
- ・ 交通教育センターレインボー和光
- ・ 交通教育センターレインボー埼玉
- ・ 交通教育センターレインボー浜松
- ・ 交通教育センターレインボー浜名湖
- ・ 鈴鹿サーキット 交通教育センター
- ・ 交通教育センターレインボー福岡
- ・ 交通教育センターレインボー熊本



ファーマー安全運転コンテスト

ホンダベトナムカンパニー・リミテッド/Honda Vietnam Co., Ltd.

すぐに役立つ運転情報を盛り込んだプログラム

ホンダベトナムは、2006年度に引き続きベトナム各地で「ファーマー安全運転コンテスト」を開催しました。2007年5月から9月にかけて、前年度の計7回を上回る計9回のコンテストを9つの省で実施。中央農業組合、国家交通安全委員会、そして各省の農業組合と交通警察署の協力のもとで行われ、国内各地の参加者からも高い評価をいただきました。このイベントは、ベトナム全人口の70%近くを占める農業に従事する人々を対象としています。2007年度は成功した前年度の手法を引き続き採用。どのプログラムにも、すぐに活かせる運転全般に関する情報を盛り込み、そうした情報を積極的に求める人々が、熱心に参加しました。



2日間で交通についての講習やコンテストなどを実施

初日は、各省の交通警察が、交通規則や二輪安全運転のルールについての講習を実施。以前には、このような講習は農業に従事する人まで十分に行き届かなかったこともあり、参加者達はこの機会に学びたいという真剣な姿勢で臨んでいました。2日目の午前中は、ヘルメットを着用し、地元の人々が観覧する中、隊列走行に参加。その後の開会式では参加者達が、運転中に起こる問題と対処方法をユーモラスに盛りこんだ手作りの劇を上演しました。午後には、交通規則に関するクイズ、平衡感覚テスト、三角コーンを回るコース走行テストなどの

チーム対抗コンテストを開催。夕方には決勝戦が行われ、運転シミュレーションに基づいたクイズで上位3チームが競い、会場は熱気であふれました。

ベトナムのモビリティ社会に貢献する活動をこれからも

コンテストだけでなく、バイクのメンテナンスや環境問題などの意識向上を促す数々のメニューも用意。サービスコーナーでは、Hondaの従業員が、メンテナンスに関するアドバイスや、バイクの無料整備、低価格のオイル交換などのサービスを提供。また、Hondaの環境保全への取り組みのひとつとして、参加者全員による植樹も行いました。

参加者からは、ニーズを捉えたイベントであるという反響が多く寄せられ、今後も活動を続けていくことが望まれています。Hondaの従業員も、このイベントによる効果の大きさを実感。Hondaは今後も、安全なモビリティ社会への貢献のひとつとして、地域と密に協力し合い、ベトナムの明るい未来づくりに貢献していきます。



地域に根ざした活動

Hondaは創業当初より、事業を展開する地域に溶け込み、
「地域との共生」をめざしてきました。

この考えはHondaの社会活動理念にも受け継がれ、
国内の事業所、販売会社やグループ会社、世界各国の拠点で、
地域の特性にあわせたさまざまな活動を展開しています。



Together for Tomorrow





タッチ・ザ・ワールド & 大使館訪問

世界との出会いを楽しむ 「タッチ・ザ・ワールド」

Honda本社のある東京・港区。周辺に多くの大使館が集まるこの地域の特性にあわせた活動として、「タッチ・ザ・ワールド」が1999年にスタートしました。毎年3～5カ国の大使館にご協力いただき、子ども達に世界各国のさまざまな文化にふれる場を提供しています。2007年度は、アルジェリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ドミニカ共和国、クウェートの各大使館などにご協力いただき、特製パスポートを手にその国の言葉で挨拶しながら各国ブースをまわるミニミニワールドツアーや、各国のパフォーマンスが繰り広げられるステージ、日本の伝統的な職人技を実演するコーナーなどのイベントを実施。好奇心いっぱいの子も達は、ステージ前でいっしょに歌ったり踊ったり食べたことのない郷土料理などを試食してみたり、新しい文化にふれることを楽しんでいました。



出会った国の外交官に取材する 「大使館訪問」

タッチ・ザ・ワールドで出会った国のことをもっと知りたい。そんな子ども達の好奇心に応えるため、イベント参加大使館にご協力いただき、毎年夏休みに「大使館訪問」を実施しています。子ども達は、普段なかなか入る機会のない大使館を訪れて、外交官の方にその国の言葉でまずは自己紹介。事前に調べてきたことや聞きたいことを次々と質問します。子ども達の自由な発想に、驚きながらも丁寧に答えてくれる大使館の方々。貴重な経験をもとに子ども達は取材レポートを作成しました。



●参加人数実績-----

年度	タッチ・ザ・ワールド	大使館訪問 [※]
2005	約1,100名	52名
2006	約1,300名	45名
2007	約1,500名	52名

※ 大使館訪問は定員制です

●「タッチ・ザ・ワールド」 「大使館訪問」 2007年度参加大使館 -----

アルジェリア民主人民共和国
ボスニア・ヘルツェゴビナ
ドミニカ共和国
クウェート国

障がいのある人の雇用を促進する特例子会社

Hondaは、自立・平等・信頼という「人間尊重」の理念のもと、「人間は本来、夢や希望を抱いてその実現のために思考し、創造する自由で個性的な存在である」ととらえています。こうした人間が集い、個性を尊重し合い、平等な関係に立ち、信頼し、持てる力を尽くすことで、ともに喜びを分かちあえる企業でありたいと願っています。

そして、Hondaは全国の事業所だけでなく、特例子会社のホンダ太陽(株)、ホンダR&D太陽(株)、希望の里ホンダ(株)でも、障がいのある人の雇用を促進しています。

一人ひとりが夢や目標を持ってチャレンジし、心豊かな生活を

ホンダ太陽(株)

Hondaの創業者である本田宗一郎が、大分県別府市の社会福祉法人「太陽の家」を訪れ、創設者の中村裕博士の「障がいのある人に働く機会を」という考え方に共鳴。Hondaでも障がいのある人達の雇用を拡大し、「社会参加する喜びをともに分かちあいたい、夢を実現してもらいたい」との思いから、ホンダ太陽が1981年に本田技研工業(株)の特例子会社として設立されました。以来、障がいのある人達の雇用拡大と、高品質な自動車部品の製造に取り組んでいます。安全と安心を第一に考え、工場は車いすの人を考慮したユニバーサルデザインに対応しています。



ホンダ太陽は、夢にチャレンジする従業員のサポートも積極的に行っています。そのひとつが、障がい者スポーツで先駆的な役割を果たしてきた「ホンダアスリートクラブ」です。ホンダ太陽とホンダR&D太陽の従業員が所属するこのクラブは、車いすマラソンや水泳などの国際大会への参加

も多く、トップクラスの成績を収めています。また、その他にも車いすバスケットやカートレースなど、夢や目標を持ってチャレンジする従業員を応援しています。

また、ホンダ太陽はHondaの各事業所が社会活動の方針や情報を共有する社会活動連絡協議会の一員として、地域との共生、子ども達の育成支援活動を中心に社会活動を展開しています。従業員が地域の養護学校に出向き、障がいのある子ども達に、ASIMOのダンボールクラブつくり(ドリームハンズ)を体験してもらうなど、地域に根ざした活動を展開しています。



ホンダアールアンドデー太陽(株)

ホンダR&D太陽は、(株)本田技術研究所の特例子会社として、1992年に設立されました。業務内容がコンピュータによる設計・製図業務などCADに特化しているため、より重度の障がいのある人々が業務に携わることができます。これにより、障がいのある人の雇用のさらなる拡大を図ることができました。

また、社会活動については、同一敷地内にあるホンダ太陽と連携を取りながら、従業員のボランティアを中心に積極的に展開しています。



充実感に満ちた、ノーマライゼーション工場

希望の里ホンダ(株)

1985年、本田技研工業(株)と熊本県、松橋町(現 宇城市)の共同出資で、自動車業界初の第3セクター方式による重度障がい者雇用事業所として設立されたのが希望の里ホンダです。自動車関連部品は世界最適調達と言う厳しい条件下で、品質最優先の目標を掲げ、障がいのある人々の自立、地域との調和、そして働きがいのあるノーマライゼーション工場の実現をめざして、生産活動に取り組んでいます。

希望の里ホンダがある熊本県宇城市の「希望の里」は、同県が進める心身障がい者福祉拠点と周辺地域との調和を目的とした新しいコミュニケーションゾーン。福祉施設や学校、体育館、グラウンドなどがあり、地域の人々も一緒に働き、スポーツも楽しむことができます。

社会活動については地域社会の一員として、福祉領域や次世代育成支援を中心に、積極的に展開しています。また、社会活動やスポーツを行う従業員に費用や時間の面でサポートすることで、自らの夢の実現や自己成長を図ることを応援しています。



国内Hondaグループの社会活動

Hondaの事業所をはじめ、全国に広がる販売会社やグループ会社は、企業市民として、それぞれの地域に根ざした社会活動を展開しています。

事業所

本社および国内5カ所の製作所を事業所と称しています。製作所には社会活動推進センターを設置し、各センターと本社の社会活動推進室は、連絡協議会を通じてコミュニケーションをはかりながら、「ドリームハンズ」、「環境わごん」、「国内『水源の森』保全活動」、「交通安全キャラバン」などの共通プログラムを展開。同時に、事業所独自の活動にも力を入れています。



本 社：日本および全世界にわたる生産・販売・サービス・マーケティング・（青山・和光）物流・管理（経理・総務等）の統括機能
 埼玉製作所：四輪車および四輪車用エンジンの製造
 鈴鹿製作所：四輪車および四輪車用エンジンの製造
 浜松製作所：二輪車（中／大型）、四輪車ATトランスミッションおよび汎用製品（船外機）の製造
 熊本製作所：二輪車（小型）・汎用製品の製造、軽四輪車用エンジン、汎用エンジンの製造
 栃木製作所：四輪車用エンジン部品および四輪車用部品の製造

販売会社

二輪車や四輪車など、Honda製品の販売を行う会社。環境保全や安全運転、福祉への取り組みなど、地域のお客様と直接ふれあえる販売会社ならではの社会活動を展開しています。

グループ会社

研究開発・営業・輸送・不動産・レジャー・教育・部品製造等に関連する会社。工場見学の受入れ、地域イベントへの協賛や清掃活動の実施など、技術と人の力を活かした地域独自の活動に取り組んでいます。

※この章では事業所と販売会社・グループ会社の一部の活動を紹介しています。販売会社・グループ会社のその他の活動については、P54～P56に掲載しています。

事業所共通の活動

●工場見学受入れ

「開かれた工場」をモットーに、1960年から工場見学の受入れをスタート。小学校の社会科見学に協力するとともに、地域の方々にHondaに対する理解を深めていただくために、積極的に取り組んでいます。



2007年度実績

事業所	受入件数	参加人数
埼玉	428件	19,505名
鈴鹿	906件	55,325名
浜松	162件	4,031名
熊本	225件	6,975名
栃木	31件	608名
計	1,752件	86,444名

●クリーン作戦

Hondaの各事業所では、周囲の清掃活動に加え、地域社会の環境美化活動へも積極的に参加する「クリーン作戦」を行っています。職場の仲間や家族と一緒に楽しみながら取り組んでいます。



2007年度実績

事業所	実施回数	参加人数
本社	42回	433名
埼玉	17回	736名
鈴鹿	2回	587名
浜松	4回	244名
熊本	2回	3,307名
栃木	1回	441名
計	68回	5,748名

●献血

各地域の献血センターと協力して、事業所の敷地内において従業員の献血活動を、年間を通じて実施しています。

2007年度実績

事業所	実施回数	参加人数
本社	2回	236名
埼玉	4回	351名
鈴鹿	6回	486名
浜松	4回	664名
熊本	3回	479名
栃木	1回	40名
計	20回	2,256名

●年賀ハガキ回収

会社宛ての年賀状を回収し、当選したお年玉付き年賀ハガキを選別して賞品に交換し、各事業所地域の社会福祉協議会などに寄付しています。2007年度は、281枚が当選していました。

埼玉製作所

●入間川クリーン作戦

入間川中流領域の狭山市に工場がある埼玉製作所では、1979年に入間川河川の清掃活動を開始。1982年に活動を市に移管しましたが、協力を継続しており、2008年3月1日には従業員やOBとその家族182名が清掃活動に参加しました。

●「ミニコンサート」送迎ボランティア

地域社会福祉施設を利用する方々とボランティアの方々と交流の場として、川越市社会福祉協議会地域福祉課が実施するコンサート。Hondaは交通手段のない方々の送迎をはじめ、運営（舞台裏進行係）、利用者補助などのお手伝いをしています。Hondaが協力をはじめて9回目となる2008年2月17日のコンサートでは、従業員・OB7名が参加しました。



ミニコンサート

その他の活動

●スポーツ振興支援

年間38回のスポーツ大会、実技講習会を実施。従業員のべ431名が運営に参加しました。

●クリスマスイベント開催

地域の方々、従業員やその家族など、約3,000名が来場。約70名の従業員がボランティアスタッフとして参加しました。モノづくりコーナーには、138名の子ども達が保護者の方々とともに訪れ、ミニクリスマスツリーづくりに取り組みました。



入間川クリーン作戦

鈴鹿製作所

●「Honda HEAT」によるラグビースクール支援

鈴鹿製作所ラグビー部の「Honda HEAT」は、試合の合間や休日に、地域社会活動の一環として鈴鹿ラグビースクールの支援をしています。また、近隣小学校の授業の中でタグラグビーの指導や、県内高等学校や集合講習会等でラグビーの指導を行うなど、スポーツ文化振興への取り組みを行っています。さらに、Honda HEATのメンバーが、Hondaビーチクリーン活動に参加するなど、地域の方々といっしょに活動に積極的に参加し、喜びの輪を広げています。



鈴鹿ラグビースクール

その他の活動

●ソーラーカーレース会場で「ドリームハンズ」開催

ドリームハンズや電動小型カート組立て教室などを行い、計122名の子ども達が参加しました。10名の従業員やOBがボランティアで運営にあたりました。

●千代崎海水浴場ビーチクリーン活動

従業員およびその家族103名がボランティアとして清掃活動に参加しました。

●ゲートボールスクール

年間を通じて48回開催し、981名の参加がありました。のべ274名の従業員やOBのボランティアスタッフが運営にあたりました。



千代崎海水浴場ビーチクリーン活動



ゲートボールスクール

浜松製作所

●「やらまいカー」組立て、試乗体験教室

「ドリームハンズ」の一環で行われる、従業員と地域の大学生の共同プロジェクト。手づくりゴーカートキットを子ども達が自ら組立て、試乗走行します。「走る、止まる、曲がる」というクルマの基本を体験し、モノづくりの楽しさを実感します。2007年度は5回行われ、292名の参加があり、82名の従業員がボランティアとして運営にあたりました。

●施設交流会「潮干狩り」

障がいのある人達17名を招待して、浜名湖での潮干狩りや湖上遊覧を楽しんでいただきました。昼食をとりながら39名の従業員・OBと交流をはかりました。

その他の活動

●浜名湖クリーン作戦

浜松市、湖西市、新居町が主催する「浜名湖クリーン作戦」の主旨に賛同して、従業員やOBなど806名が参加しました。

●グラウンドゴルフ大会

浜松市内の施設で過ごす高齢者や障がいのある人達48名と従業員やOB14名が大会を通じて交流を行いました。

●事業所周辺美化活動

3ヵ月に一度、従業員が製作所周辺の歩道や駐車場周辺のゴミ収集を行っています。2007年度は244名の従業員が参加しました。



「やらまいカー」組立て、試乗体験教室



施設交流会「潮干狩り」



グラウンドゴルフ大会

熊本製作所

●第19回カントリーゴールド

南阿蘇のアスペクタで毎年行われるカントリーミュージックコンサート「カントリーゴールド」に協賛しています。2007年度は10月21日に行われ、Hondaは会場に製品を展示したり、子ども達を対象にしたダンボールクラフト教室「ドリームハンズ」を行うなど、8名のボランティアスタッフがHondaブースの運営にあたりました。

その他の活動

●すこやか2008

2008年2月23日・24日に行われた熊本県の子育て支援イベント。Hondaブースでは、「交通安全キャラバン」と「ダンボールクラフト」を開催しました。

●中学生軟式野球大会を開催

近隣中学校を対象とした野球大会を開催。Honda野球部の従業員35名が審判や運営委員となって大会を運営しました。

●合志市民まつり

熊本農学公園カントリーパークにて合志市民まつりが行われ、ダンボールクラフト教室を開催しました。



中学生軟式野球大会



交通安全キャラバン

栃木製作所

●ソフトボールスクール開催

栃木製作所は、日頃のソフトボール部への声援に感謝するとともに、地域貢献およびジュニア育成を目的に、2007年11月～12月にかけての4日間、技術指導を中心としたソフトボール教室を開催しました。栃木県内の小学生や中学生を中心とした52チーム659名が参加。部員たちは、シートノックを披露したあと、一日かけて、守備や打撃、送球などの実技指導を行いました。



その他の活動

●五行川的环境保全活動

製作所の近くを流れる五行川の河川敷を、取引先様、従業員とその家族441名が清掃しました。

●「安全運転モデルロード」パレードに協力

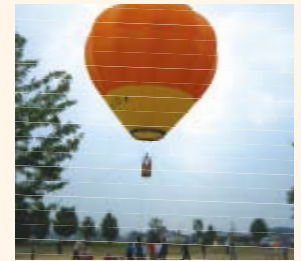
工業団地管理協会主催の「安全運転モデルロード」パレードが開催され、体育館やオープンカーを貸出し、30名の従業員がパレードに参加しました。

●熱気球ふれあい活動に協力

障がいのある子どもがいるご家族を対象とした熱気球体験活動の運営を、地域ボランティアの方々と協力して行いました。



五行川的环境保全活動



熱気球ふれあい活動

本社（和光）

●ライトアップセレモニー

2007年12月5日、地域の方々を招待して従業員・OBとともに約800名が、和光事業所の敷地内のメタセコイアのライトアップを楽しみました。当日は、従業員がサンタクロースに扮してミニプレゼントを配り、地元中学校吹奏楽部によるクリスマスソングの演奏、着ぐるみショーなども行いました。子ども達をはじめ、保護者や近隣の方々に楽しんでいただきました。



その他の活動

●運転シミュレーター用車両寄贈

自動車への興味と交通安全に対する理解促進のため、和光市総合児童センターに、運転シミュレーターを寄贈しました。

●桜ライトアップDE「花の宴」

2007年3月、和光事業所の桜をライトアップ。最終日には地域の人達にも広場を開放しました。

●和光ビル周辺清掃活動

毎週火曜日、和光ビルから和光市駅への通勤順路と駅前広場を、従業員・OBが清掃しています。



桜ライトアップDE「花の宴」



和光ビル周辺清掃活動

本社(青山)

●国際フットサル大会に協力

2007年4月14日、「第10回港区国際フットサル大会」が開催されました。Hondaはこの大会に賞品の提供をはじめ、Hondaブースでは子ども達を対象にしたゲームを実施するなど運営に協力しています。フットサル参加チームの小学生をはじめ、保護者や近隣の方々にも楽しんでいただきました。



国際フットサル大会

●東京ベイ・クリーンアップ大作戦に参加

「東京湾を泳げる海に!」を合言葉にはじまった、東京都港区の関連団体や住民の方々に参加する東京・お台場海浜公園の清掃活動「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」に環境保全活動支援の一環として、2005年度から協賛しています。2007年度は9月8日に催されました。お台場海浜公園の中でも、都心ながら多くの水生生物が生息し、春には潮干狩りも楽しめるおだいばビーチを中心に、Hondaの従業員とその家族39名を含む約350名のボランティアの方々が清掃活動を行いました。



東京ベイ・クリーンアップ大作戦

従業員 ボランティアの 声

「皆で使う公園を清掃する体験と、作業が終わった後、きれいになった光景を見て、その気持ち良さを実感する。こうした経験を家族と一緒にできるいい機会だと思っています。今後ともタイミングさえ合えば、家族で参加していくつもりです。」

●青山一丁目クリーンキャンペーン参加

2008年3月、Honda本社のある港区青山一丁目、港区赤坂地区総合支所が主催する「青山一丁目クリーンキャンペーン」が行われました。2007年度3回目となったこの活動には、Honda従業員20名が参加、青山一丁目交差点付近の歩道や植え込みの中のゴミを回収しました。Hondaは今後も、港区が掲げる「まちの美化と安全」を推進するために継続的に参加していきます。



青山一丁目クリーンキャンペーン

その他の活動

●小学校の社会科授業に協力

青山小学校の社会科授業「自動車産業」で、子ども達が自分で考えた車を発表し、従業員が講評を行いました。

●青山美化ピカ清掃大会に参加

青山商店会連合会・青山環境美化委員会主催の「青山美化ピカ清掃大会」が春と秋に実施され、年間で80名のHonda従業員が参加。本社のある青山一丁目付近のゴミ拾いを行いました。



青山小学校社会科授業協力

グループ会社の活動

(株)アイキテック 本社：愛知県東浦町

●工場見学会

地域の小学生などを招いて、工場見学会を開催しています。トランスミッションギヤの一貫加工の工程、さらに風力・太陽光発電などの環境にやさしい設備、部品の製造ロボットや無人の部品搬送車など、工場の見学をしてもらうとともに、質疑応答の場を設け、生産工程や環境対応の取り組みについて、理解を深めてもらっています。

●屋上緑化

工場の屋根全体をツルマンネン草(セダム属)で覆い、緑化を推進しています。この試みは、景観をよくするだけでなく、周辺環境の改善にもプラス。根から吸収した水が葉から蒸発する際に気化熱をうばう蒸散作用により、気温が低下して、夏の冷房使用を抑えることができます。

その他の活動 ●工場周辺のクリーン活動 ●東浦役場へ福祉車両寄贈
●関市武芸川ふるさと夏祭り花火大会・東浦町産業祭り参加 ●地域行事の協賛金・助成金 など



浅間技研工業(株) 本社：長野県小諸市

●小諸国際交流フェスティバル

地域に暮らす海外出身の方々による母国の紹介を通してさまざまな文化にふれることができるイベント「小諸国際交流フェスティバル」。2007年は13カ国の方々が集う中、浅間技研工業ではインドネシアの子会社(P.T. ASAMA INDONESIA)から受入れた研修生28名が参加。インドネシアの歌・踊りの紹介、風景写真や民族楽器の展示、インドネシア料理の試食などを通して、地域の方々と国際的な交流と相互理解を深める場となりました。

その他の活動 ●インターンシップ学生受入れ ●工場見学受入れ
●少年野球クラブへのグラウンド貸し出し ●中学生一日職場体験学習協力
●秋の全国交通安全運動参加
●献血 ●小諸市主催夏祭り参加 ●小諸市総合防災訓練 ●小諸ひかりのファンタジー協力
●桜祭り・佐久バルーンフェスティバル・小諸市「戦国サイクリング」・小諸市民ゴルフ大会協賛
●事業所周辺のクリーン活動 など



(株)ホンダコムテック 本社：埼玉県和光市

●森田さんの夏休み教室「お天気とエネルギーのはなし」(Hondaウェルカムプラザ企画)

2007年8月、お天気キャスターの森田正光さんを講師に迎え、小学生を対象にした夏休み教室を開催し、2日間で152名の子ども達が参加しました。この教室では、お天気の不思議やおもしろさの話から始まり、風力やソーラーの実験・工作を体験。子ども達に自然科学の楽しさを感じてもらおうと同時に、エネルギーと地球環境には密接な関係があることに気づき、興味を持ってもらうきっかけになればと行われました。

その他の活動 ●お客様や地域の方々に喜んでいただけるイベントを毎月実施

Hondaウェルカムプラザとは

東京都港区のHonda青山ビル1階にあり、1985年のオープン以来、Honda製品の展示や技術の紹介のほか、さまざまなイベントを企画・実施して、ご来場のお客様や地域の方々とのふれあいの場となっています。
※(株)ホンダコムテックは、Hondaウェルカムプラザの運営・管理を行っています。



販売会社の活動

環境・安全・福祉認定制度(四輪販売会社)

Hondaは、販売・サービス段階での環境・安全・福祉における独自の基準を設け、お客様と地域に喜ばれ、信頼されるディーラーをめざしています。



グリーンディーラー

環境保全のためにさまざまな活動を実施している、地球にも地域にもやさしい販売会社です。



レインボーディーラー

安全という面から、クルマの楽しさ、クルマのある快適な暮らしをバックアップしている販売会社です。



オレンジディーラー

福祉という視点から、クルマの販売を通して地域社会に貢献する、人にやさしい販売会社です。

盲導犬育成支援(二輪および四輪販売会社)

Hondaは、全国の二輪および四輪販売会社の店頭にて、(財)日本盲導犬協会の募金箱を設置してご協力いただくよう推進しています。2007年度の設置協力店は1,096拠点、募金総額は156万円でした。



二輪販売会社 **ホンダドリーム堺** 本社：大阪府豊中市

●中学生の職場体験学習受入れ

ホンダドリーム堺では、地元中学生を対象に、職場体験学習の受入れを行っています。この活動には、二輪販売店の実務体験を通じて、働くことの喜びや厳しさなどを知り、将来の進路選択に役立ててもらいたいという思いが込められています。



その他の活動 ●地域のお祭りへの協賛 ●パラリンピック募金箱設置

四輪販売会社 **Honda Cars 山口** 本社：山口県山口市

●山口いきいきエコフェア

2007年10月、県が主催する「山口いきいきエコフェア」にブースを出展し、シビック ハイブリッドや燃料電池車FCXなど、Hondaの環境技術についての展示・紹介を行いました。また、製品の技術だけでなく、「ビーチクリーン活動」の取り組み紹介や、Hondaのエコカーをモチーフにした塗り絵やペーパークラフトを体験するコーナーを設けるなど、多くの来場者にHondaの環境技術や取り組みについて伝えることができました。



その他の活動 ●小中学生対象熊本製作所見学バスツアー ●職場体験受入れ

四輪販売会社 **Honda Cars 大和奈良** 本社：奈良県葛城市

●地域の清掃活動

Honda Cars大和奈良では、店舗近くにあるJR新庄駅構内や周辺の清掃を、従業員が毎週月曜日に行っています。また、店舗周辺の道路についても清掃活動を行っており、地域の方が気持ちよく過ごせる環境づくりを、年間を通じてお手伝いしています。





出前環境学習 京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム

地域の小学校を訪問して 環境学習を実施

Honda Cars京都では、京都市内などの企業、NPO、京(みやこ)エコロジーセンター、京都市などとともに、「京(みやこ)のアジェンダ21フォーラム・京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム」に参加して、地域で環境問題を解決するための活動を展開しています。その一環として、2008年2月、Honda Cars京都がある地域の京都市立朱雀第四小学校を訪問して環境学習を行いました。プロジェクトチームのメンバー4名が講師となり、6年生の児童48名に地球温暖化問題について説明するとともに、エコドライブの推進といったCO₂削減に取り組む具体例をわかりやすく説明しました。

燃費や燃料電池車の話で さらに高まる環境への興味

Honda Cars京都からは、Hondaとして力を入れて取り組んでいる燃費をテーマにした話や、燃料電池車FCXクラリティについての講義を行いました。また、太陽電池パネルと家庭用燃料電池で実現する循環型社会の講義では、子ども達に問い掛けながら、環境に対する興味を高めてもらいました。子ども達からは、「家族に教えた」「車の使い方を考えるのは、大切なことだと思った」などの反応があり、子ども達が環境問題について考える良いきっかけづくりとなったようです。



「京のアジェンダ21フォーラム・京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム」プロジェクトリーダー 長屋博久さん

スタッフの 声

「車のプロならではの
説得力があります」

「Hondaの人は環境活動に熱心で、勉強会にも積極的に参加してくれます。燃費のこととか、次世代の車のことなどは、やはり車のプロが語ると説得力があるんです。プロがこういった教育の現場に出て行くというのは、意味のあることだと思います。」

海外Hondaグループの社会活動

Hondaは、現地オペレーションの自立化を積極的にすすめています。海外での社会活動においても、その地域の実情に応じた取り組みをすすめて、お客様や地域の方々とコミュニケーションをはかりながら、喜びを分かちあえるような活動を実践しています。ここではHondaの地域本部制にもとづき、日本以外の5つの地域での社会活動への取り組みを紹介します。



前章までに紹介した下記の活動も海外Hondaグループの活動です。

- NYPUM…P08
 - ビッグ・ダービー・クリーク保全活動…P18
 - ファーマー安全運転コンテスト…P28
 - 学校環境奨励賞…P14
 - スプリングクリーク保全活動…P24
 - イーグル・ロック・スクール…P14
 - Hondaツリーファンド…P24
- ※海外拠点でのその他の活動については、P56～P57に掲載しています。

北・中米の活動

アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド

●ライド・フォー・キッズ

「ライド・フォー・キッズ」は、小児脳腫瘍の原因解明と治療法の確立をめざす小児脳腫瘍基金(PBTF)を、バイクを活用して支援するプログラムです。1984年に始まり、Hondaは1991年からメインスポンサーとして支援。Hondaライダーズクラブオブアメリカおよび数千名を超えるライダーの協力を得て、小児脳腫瘍の研究と患者の家族を支援するため、これまでに3,700万ドルを超える募金を集めました。その内、2007年分は過去最高となる年間450万ドルにのぼります。アメリカのバイク・コミュニティのサポートを得たPBTFは、小児脳腫瘍研究を対象とした非政府基金としては世界最大の寄付をしています。



ホンダカナダ・インコーポレーテッド

●シビック・リーディング・サークル

2007年度、カナダ国内の4つの事業所に在籍するホンダカナダの従業員47名は、小学2・3年生の読む能力の発達をサポートし、読書の楽しみを教えるプログラム「シビック・リーディング・サークル」にボランティアとして参加しました。従業員は週1時間、合計10週間を子ども達と読書をして過ごし、ホンダカナダは1時間につき30分を勤務時間として扱うことで、この活動を支援。読書は、ケベック州ではフランス語で、その他の地域では英語で行われました。プログラム最終日には、それぞれのサークルを支援するHonda事業所を子ども達が訪問し、最後の読書会を楽しみました。読書の喜びを伝え、子ども達の読書力の向上にさらに貢献するため、Hondaは本を子ども達とその学校に寄付。従業員もサークルへの参加を通して有意義な経験をし、「存在を期待される企業となることをめざす」という言葉に込められた意味を再確認しました。



ホンダマニュファクチュアリングオブアラバマ・エル・エル・シー

● ボランティア月間

2007年7月、ホンダマニュファクチュアリングオブアラバマは、初のボランティア月間を実施しました。従業員の社会貢献への意識を高め、長期的に地域のボランティア活動を支援する同社のプログラム「ホンダスター」への参加を促すことを目的にしたものです。この活動では、従業員1名が非営利団体のために5時間のボランティア活動をするごとに、会社がその団体に100ドルを寄付する仕組みになっています。今回は、725名の従業員とその家族がボランティアとして参加。アラバマ盲ろう協会、ペルシティ・ボーイズ&ガールズ・クラブ、アラバマ小児病院などの団体で活動を行いました。自分達の働く会社を地域に暮らす人々の生活向上に貢献する企業にしたい、という従業員達の思いがカタチとなりました。



アメリカンホンダ財団

● 全米の教育プログラムを支援

アメリカンホンダ財団は1984年に設立された非営利の社会活動団体。子ども達の教育や科学教育の分野で、価値ある活動が続ける非営利の団体やプログラムに対して、資金援助をしています。財団は、Hondaと同じく、前向きで想像力にあふれ、若いマインドで創造的、革新的、科学的、かつ人道的に活動する団体を支援して、これまでに2,000万ドル以上の資金を寄付しました。

2007年度に財団が支援した活動としては、ハーレム・チルドレン・ソサエティによる高校生を対象とした科学研究インターンシップや、マサチューセッツ大学フューチャー・エンジニアズ・センターでの小学5年生～中学2年生を対象とした設計と問題解決トレーニングなどが挙げられます。



ホンダ・デ・メキシコ・エス・エー・デ・シー・ブイ

● 四輪バギーツーリングイベントで清掃活動

2007年4月28日、四輪バギー愛好者の方々に向けて、ホンダ・デ・メキシコはメキシコ全土で74通りのルートでのツーリングイベントを開催。Hondaからは94店の販売店従業員と2,000名以上のお客様が参加しました。メキシコ国内に残されている貴重な森林や川辺、海岸などの多彩なフィールドで四輪バギーの走りを楽しむとともに、それぞれの場所でクリーンアップ活動を実施。参加者は用意したゴミ袋を手に、昼食などの休憩地点で清掃活動を行いました。



南米の活動

ホンダオートモーバイス・ド・ブラジル・リミターダ

●子ども達の交通安全を促進

2007年5月、ホンダオートモーバイス・ド・ブラジルは、子ども達の交通安全を促進する新しいプログラムを立ち上げました。5名のHonda従業員が、スマレ交通局から支給されたマニュアルと図面に従って、スマレ工場付近にある5つの学校の周辺道路に横断歩道や路面標示をペイントし、道路標識を設置。この標識によって、クルマを運転する人に学校や横断歩道の存在を伝え、交通量の激しい道路でも子ども達が安全に横断することができるようになりました。

また、さらなる交通安全対策として、交通局とHonda、そして5校の教員が協力して特別イベントを実施。子ども達が楽しみながら学べるように工夫をこらし、教員とHonda従業員が合同で交通ルールと交通安全の基本を指導しました。このイベントは、5校の全学年を対象に通常の授業に代え1日かけて行われ、交通安全について学ぶ貴重な機会となりました。子ども達と教員からの評判も良く、2008年も同5校で実施される予定です。今後は、道路環境の安全をいっそう強化し、新たに5校での交通安全指導も行う予定です。



●団結ワークショップ

サンパウロの都市スマレで創業以来、ホンダオートモーバイス・ド・ブラジルは、地域の恵まれない人々を支援してきました。「団結ワークショップ」はその取り組みのひとつです。従業員が毎月寄付を行い、会社も同金額を寄付。その資金を利用して、従業員がボランティアで食糧の提供や、娯楽や教育支援を行うイベントを開催しています。

「子どもの感受性はとても素晴らしい。ボランティア活動は完全な奉仕ですが、子ども達の笑顔を見られることに勝る喜びはありません。同僚達にも、ボランティアとして参加することを勧めています」と従業員ボランティアのひとり話します。また、コーディネーター、マルセロ・ペロンも同様に活動を有意義なものだと感じ、「会社が社会の一員としての責任を果たすように従業員が団結し、地域の役に立てるとてもうれしい」と述べています。

イベントは年3回行われます。2007年には、ブラジルの伝統行事「6月のパーティ」の特別企画として、従業員が地域に食糧を寄付し、絵画コンクールなどの児童教育活動を実施しました。また、10月12日には、子どもの日を祝って、子ども向けの文化イベントを盛り込んだパーティを開催。さらに、食べ物を詰め合わせたバスケット540個を地域の方々に寄付しました。

12月の「クリスマスパーティ」には3,000人が参加し、2007年最大の地域交流イベントになりました。従業員は食べ物を詰め合わせたバスケット1,000個以上を配り、子ども達1,800名におもちゃや衣服、教材、キャンデーなどを袋詰めしたクリスマスプレゼントを贈りました。さらにホットドッグ、ポップコーン、キャンデーなどをふるまい、無料の散髪サービスを提供しました。



モトホンダ・ダ・アマゾニア・リミターダ

●アマゾンの大切さを伝える森林保護区見学ツアー

ブラジルのアマゾナス州マナウス市には、アマゾン特有の生態系の保護と研究を目的に設立された約100平方キロメートルに及ぶアドルフォ・ドウッケ森林保護区があります。2003年、モトホンダ・ダ・アマゾニアでは、森林管理や水資源などを研究するナショナル・インスティテュート・オブ・アマゾン・リサーチおよび地方自治体と提携し、地域の人々に自然環境への理解を深めてもらうため、この保護区と植物園の送迎付き見学ツアーを開始しました。

2007年には3月～12月の毎月最終日曜日、約250名がガイド付きの森林散策、マラリアなどの熱帯性の病気に関するセミナー、環境をテーマにした演劇や子ども向けのゲームなどの教育プログラムに参加。この地域特有の生態系と、それらが人間に与える影響について学ぶのと同時に、水質汚染、森林破壊などの環境破壊の防止に努めることの大切さを伝えました。モトホンダ・ダ・アマゾニアの従業員8名がボランティアとして、参加者の送迎や飲み物の提供などのイベント実施のサポートにあたりました。



ホンダサウスアメリカ・リミターダ

●二輪車の安全運転普及活動

ホンダサウスアメリカでは、1998年にサンパウロ州インダイアトゥーバ市に、2006年にはペルナンブコ州レシフェ市に設立された「CETH (Honda交通教育センター)」を運営しています。生活から仕事まで幅広く二輪車を利用しているブラジルで、人々が安全に暮らし、働くために、安全運転の指導を目的とした学科と実技の二輪車講習を実施しています。

2007年には、サンパウロ、ミナスジェライス、ペルナンブコ、バイアの4州で、28回の講習会を開催し、3,997名が参加しました。サロン ドゥアス ホーダス バイクショー、アグリショー、アドベンチャー・スポーツ・フェア、冬のフェスティバル「カサ・ホンダ」などのイベントでは、二輪車と四輪バギーの試乗会を実施し、10,545名が参加。また、インダイアトゥーバの交通教育センターとHondaのスマレ工場で、イベントを3回実施し、687名が参加、5,000名以上が見学しました。バイク利用者の増加にともない、安全への関心が高まる地元の企業や学校の要請を受けて行うことが多い講習会では、わずか1時間半で大人数に効率的に安全な運転技術を教えます。さらに試乗会では、技術レベルに応じてHondaのインストラクターがきめ細かく指導し、ベテランライダーの実演も行われます。CETHのプログラムには運転免許を持つ人なら誰でも参加することができ、参加者は年々増加しています。



欧州・中近東・アフリカの活動

ホンダオートモビلزエスパーニア・エス・エー

●「アクティブ・アフリカ」への支援

存在を期待される企業となることをめざして、ホンダオートモビلزエスパーニア、ホンダ・ファイナンス・スペイン、そしてHondaの販売会社は、アフリカの馬拉ウイとケニアの社会福祉に貢献するスペインのNGO「アクティブ・アフリカ」に101台の自転車を寄付しました。馬拉ウイでは、道路などのインフラが不足しており、教師や医師は、生徒や患者を自転車で訪問しています。そこで、Hondaの従業員は1カ月の自転車収集キャンペーンを展開。販売店でのポスター掲出や従業員間のネットワークを活用して寄付を呼びかけた結果、この活動に共感した従業員やお客様から多数の自転車と募金が集まり、「コーポレート・デー」の特別式典でアクティブ・アフリカへ贈呈されました。コーポレート・デーは、ホンダオートモビلزエスパーニアとホンダ・ファイナンス・スペインの全従業員が集い、親睦を深める年に1度のイベントです。この寄付に対し、アクティブ・アフリカから感謝の言葉をいただき、従業員達は社会貢献できたことの充実感に満たされました。



ホンダイタリアインダストリアーレ・エス・ピー・エー

●ホンダ・ライディングスクール

1998年以来、ホンダイタリアインダストリアーレは「ホンダ・ライディングスクール」を実施しています。インストラクターの資格を持つHonda従業員が指導にあたり、ベテランライダーから初心者まで、オートバイやスクーターの安全運転について学ぶことができる野外講習会です。イタリア各地の特別イベントで実施され、モビリティ社会での交通安全を促進すると同時に、若い世代にバイクを運転する喜びと興奮を伝えています。講習では実際の運転を想定して数々の障害物が配置された特別コースが設けられ、インストラクターは参加者のレベルに合わせた指導を行います。2007年度には、ホンダイタリアインダストリアーレでも特に優れた技術と豊富な経験を持つ従業員30名が指導するライディングスクールを、7つのイベントで実施。参加者は339名にのびりました。うち4つは、Hondaの二輪車のオーナーがレースコース走行を体験できる「Hondaフェスティバル」として開催。また、年に1度行われるイタリアらしい都市型イベント「バイカーズ・フェスティバル」で、また「ホンダ・イン・ザ・シティ」でも2回、ホンダ・ライディングスクールが実施されました。



ホンダバンク・ゲー・エム・ベー・ハー

●授業協力「お金ってなに？」

自動車ローンを専門とするホンダバンクに勤めるウィリ・タータリカ。彼は、娘の学校の先生が、お金とお金に付随する責任について教えられる専門家を探していることを知り、協力を申し出ました。会社がこれを支援し、7~8歳の子ども達を対象とした特別授業を2回開催。お金の歴史や使い方、通貨ごとに価値が異なる理由、そして価格の概念について教えました。

現在ドイツでは、若者の借金が深刻な社会問題となっており、この特別授業は、学校や家庭でのお金に関する教育を支援して、子ども達に責任のあるお金の使い方を学んでもらうことを目的としています。特別授業は好評で、次回は市場についての授業を行うことにしています。



ホンダオブザユー・ケー・マニュファクチュアリング・リミテッド

●HUMセーフティ・チャレンジ



「人間尊重」を基本理念とし、「安全なくして生産なし」を製造の理念に掲げるHondaは、従業員の心身の健康を保つことを重要な責務と考えています。また、Hondaはより良い明日の社会づくりに貢献できる方法を常に模索しています。ホンダオブザユー・ケー・マニュファクチュアリングはこれらを同時に実現できる理想のプログラムとして、1999年より「HUMセーフティ・チャレンジ」を開始。従業員の安全に対する意識向上と、価値ある目的のための募金という社会貢献が実現しています。

このプログラムの導入は、従業員の安全に対する取り組みや意識の向上に大きな効果があります。工場の各工程の全ワークチームが参加し、各々が「フル稼働日連続80日の無事故達成」などの目標を掲げ、達成すると、チームが選ぶ地域の慈善団体に50ポンドが会社から寄付されるのです。これまでに、合計10万ポンド以上の寄付を行いました。

またこのプログラムは、募金活動として大きな成果を収めるだけでなく、従業員が社会のニーズを機敏に捉え、自発的に社会貢献する意識を高める効果ももたらしています。また、地域の産業や社会の安全に対する従業員の意識向上にもつながっています。HUMセーフティ・チャレンジはこのような効果が評価され、長く継続しています。



ホンダ・ポルトガル・エス・エー

●世界に広がるHondaビーチクリーン活動

砂浜からゴミを取り除くため、四輪バギーで牽引する熊手とフルイを応用した全く新しいビーチクリーナーをHondaが開発。2006年5月、日本の砂浜でデビューしました。Hondaの技術者の強い決意と独創的な技術で作られたビーチクリーナーを使い、素足で歩ける砂浜を次世代へとつなぐ活動は、2007年には海外へ。

同年5月、ホンダ・ポルトガルと本田技研工業、本田技術研究所、そして地元カスカイス市の団体であるEMACの担当者が集まり、地域にある3つの砂浜でテスト清掃を実施。ビーチクリーナーによる清掃は、大きな効果があることが確認されました。これを受けて、ホンダ・ポルトガルは2007年6月5日の世界環境デーを記念したカルカペロスビーチの清掃を行いました。ほぼ全ての従業員が参加し、ビーチクリーナーの移動の手伝いや清掃活動に励み、またEMACのスタッフもゴミの回収に協力しました。参加者は小さなゴミもきちんと回収するビーチクリーナーの性能を改めて実感。美しい砂浜を守るため行われたこの活動の参加者全員が、カスカイス市の代表者の方々より感謝を受けました。ホンダ・ポルトガルは、ビーチクリーン活動を地域社会に貢献する重要なプロジェクトと位置づけ、今後も展開していきます。



アジア・大洋州の活動

ホンダフィリピンズ・インコーポレーテッド

●ホンダルーム

ホンダフィリピンズとホンダファウンデーション(フィリピン)は、2005年以来、整備士をめざす若者のための職業訓練プログラム「ホンダルーム」を後援。フィリピン各地の職業訓練校に5つ開設されたホンダルームは、Honda各社が共同で支援し、工具や設備、教材を提供。それらを使って生徒達が実践的な訓練を受けています。ホンダフィリピンズはオートバイを提供。ホンダカーズフィリピンズとホンダパーツマニュファクチュアリングでは、2008年度に四輪車のエンジンとトランスミッションの提供を予定しており、ホンダルームはめざす姿に近づきつつあります。修了した生徒達には身に付けた高い技能で、より良い就職や修理店開業などの夢を実現する道が拓けています。ホンダルームを通して、Hondaは若者たちの技能向上と夢の実現をサポートし、フィリピンでの雇用拡大に貢献しています。



ホンダマレーシア・エス・ディ・エヌ・ビー・エイチ・ディ

●ホンダ・ドリームズ・ファンド

2007年1月、ホンダマレーシアは、国連開発計画(UNDP)マレーシア事務所とともに、ホンダ・ドリームズ・ファンドの設立を発表しました。これは学費を捻出できず高等教育を受けられない若者に、学費と在学中の生活費を全額給付する基金です。この基金を通じ、Hondaは若者達の夢の実現を応援するとともに、マレーシアの人材育成への貢献をめざしています。

自分の夢について述べた課題のエッセーなどの書類選考で選ばれた60名が、4月中旬に3日間のワークショップ「夢をつかもう」に参加。プログラムを通じたチームワークや論理的かつ創造的な思考力の審査と、面接が行われました。UNDPマレーシア事務所、ホンダマレーシア、マレーシア国内人権委員会(SUHAKAM)、オール・ウィメンズ・アクション・ムーブメント、マレーシア・ユース・カウンシルのスタッフによる審査の結果、この年の奨学生20名が決定。4月25日に行われた式典で発表され、ホンダ・ドリームズ・ファンドは正式に発足しました。奨学生の一人は「本当に夢が叶ったよ!弁護士になりたいくて、勉強のための資金援助を受けたいって、毎日夢見てたんだ」と大変喜んでいました。



●ライノ・レスキュー・プロジェクト

絶滅の危機に瀕しているスマトラサイの生息数は、現在全世界で300頭足らず。スマトラサイを増やすため、Hondaは、WWF(世界自然保護基金)マレーシアと合同で調査と保護を行っています。「ライノ・レスキュー・プロジェクト」は2006年に5カ年計画としてスタート。スマトラサイの生息地保全のための技術研究やフィールドワークが行われています。

2007年度もホンダマレーシアはWWFに活動資金を出資したほか、学校での学習プログラム、販売店での展示などでスマトラサイとその生息地を保全することの大切さを人々によりよく知ってもらう活動を、前年に引き続き行いました。小学校で実施したプログラムは、子ども達が楽しみながら学べる充実した内容。ゲストによる講演では、自宅で環境に配慮して行動することがスマトラサイ救済につながる事が伝えられるなど、子ども達はプログラムを通して、自分達の役割の重要性を学びました。



ホンダタイワンモーターカンパニー・リミテッド

●高屏河川敷公園の清掃活動

2008年1月19日、ホンダタイワンモーターは工場に隣接する高屏河川敷公園の清掃活動を開始しました。工場や地元の販売会社の従業員、そしてその家族達は、郡の環境保全事務所の代表の方々と協力し、缶、ボトル、ビニール袋、タバコの吸い殻などのゴミの回収と分別を実施。ゴミのポイ捨て削減や、公園とその周辺の美しい自然の回復に貢献した約300名の参加者が、地元職員からの感謝を受けました。ホンダタイワンモーターでは、環境保全活動を通じて地域社会との信頼関係をさらに深めるため、来年度も同様のプログラムを実施する予定です。



ピー・ティ・ホンダプロスペクトモーター

●マイ・グリーン・ジャカルタ

ホンダプロスペクトモーターは、自治体の組織ジャカルタ・ガーデン・アフェアーズと協力し、3年連続で「マイ・グリーン・ジャカルタ」を展開しています。「インドネシアのためのHonda」キャンペーンの一環として実施しているこの地域プログラムは、緑の力でインドネシアの首都の環境を改善しようとするものです。

2007年には、ガルングン通りに全長800メートルの都市型公園を造り、5月2日に正式に公開されました。128本の樹木が植えられ、11,916個の鉢植えされた植物が通りに彩りを添えています。また、2008年のはじめには、バンジール・カナル・バラット川沿いに1,007本の樹木が植えられたグリーンベルトを創設し、堤防の役割を果たすことが期待されています。1月13日にはインドネシアを緑豊かにしようとするHondaの決意を象徴するイベントとして、川岸で植樹式典を実施しました。



アトラスホンダ・リミテッド

●交通安全および安全運転の促進プログラム

2007年4月～12月の期間中、アトラスホンダはパキスタンのラホール市交通警察の協力のもと、交通ルールとオートバイの安全運転を教えるプログラムを実施しました。まず150名の警察官を指導し、このプログラムのトレーナーとして認定。さらに、パキスタン初の女性交通巡視員200名を含む約3,000名の交通巡視員に対して、オートバイ運転のトレーニングを実施。認定されたトレーナー達とアトラスホンダは、一般の人々5万名、企業の人々1万名、そして300の学校の生徒達に安全運転を指導しました。パキスタン最大のバイクメーカーとして、Hondaが地域社会において果たすべき責任を反映したこのプログラム。企業と警察が協力し、草の根レベルで交通安全を促進することで地域社会に貢献しています。



ブキバト・ドライビングセンター・リミテッド

●「ライド・セーフ2007」開催

ブキバト・ドライビングセンターは、シンガポール交通警察と協力し、2007年9月1日に初の安全運転イベント「ライド・セーフ」を開催しました。300名のライダー、および企業、政府機関、オートバイクラブなどから100名のゲストが参加。楽しい対話形式で、二輪車の安全運転の講習が行われました。

イベントの始めに、参加者達は隊列を組んで各職場からオートバイで会場に集合。デモンストレーションを鑑賞して楽しく学んだ後、ライダー達は安全運転の技術を競うゲームに参加しました。ブキバト・ドライビングセンターはこのライド・セーフで、都市交通環境におけるオートバイの脆弱性を伝え、またスピード違反や飲酒運転をなくすことをめざしてこのイベントを開催しています。これからも引き続き安全運転を心掛けてもらえるよう、プログラムのメッセージがプリントされたウィンドブレーカーなどのグッズが参加者に配られました。



ホンダコリアカンパニー・リミテッド

●障がいのある子ども達への支援活動「オーケストラ」

ホンダコリアでは2007年、従業員4名が58名のボランティアの協力を得て、障がいのある子ども達の施設を支援する活動を行いました。社会に喜びと調和をもたらしたいとの思いから「オーケストラ」と名付けられたこの活動は社内に広がり、従業員の共感を集めました。9月にはチャリティバザーが開催され、従業員から集めた寄付品の販売と募金活動によって、活動資金が集められました。

この資金は、身体および知的障がいのある子ども達8名が暮らす、ミンドゥレウルに寄付されました。10月には7名のボランティアスタッフが子ども達を連れて遊園地へ。ホンダコリアは交通費や食費を負担し、交通手段として社用車を提供しました。初めての体験は忘れられない思い出となったようで、子ども達とホストファミリーから温かい感謝の言葉をいただきました。オーケストラは今後も施設への支援を続け、友好関係を深めています。



ホンダシェルカーズインディア・リミテッド

●近隣地域での巡回式健康診断実施の支援

2005年以来、ホンダシェルカーズインディアは、ライオンズクラブおよびインドを代表する医療施設であるムールチャンド病院と協力し、周辺の村を回って健康診断を実施しています。住民の健康問題への理解と意識向上につとめ、病気予防を促進するとともに、十分な医療サービスが受けられない、または治療のために遠方に出向かなければならない人々に対する治療も行っています。2007年度は、12の村で1,566名が健康セミナーと健康診断を受け、必要な人には無料で薬が処方されました。受診者の方々からは、衛生教育と医療サービスの質の高さについて評価いただきました。この反響を受け、今後は慢性疾患への対応にさらに力を入れながら、より多くの村の住民に医療サービスを提供できるよう、活動の内容と規模を拡大していく予定です。



ホンダオーストラリア・プロプライエタリィ・リミテッド

●オーストラリアの聴覚ケア支援

オーストラリアのホンダファウンデーションは、ホンダオーストラリアおよび国内の販売店、そして一般の方々からの寄付を活動資金とし、経済的・社会的に恵まれない人々、身体の不自由な人々、そして長期に渡り重い病気に苦しんでいる人々をサポートする団体を支援しています。2002年10月より、フレッド・ホロウズ財団と協力し、サンライズ・ヘルス・サービスを支援。この団体は、ノーザン・テリトリー（北部準州）のキャサリン・イースト地区に暮らす8歳未満のアボリジニーの子ども達の聴覚ケア改善をめざしています。サンライズのスタッフは、地域社会の聴覚ケアに対する意識向上のため、子ども達の家族と協力して、耳の疾患や聴力の検査を実施しています。その結果、健康な聴力で学校に通うことができる子ども達が増え、学習で成果を上げ、より健やかに成長できるよう改善されました。ホンダオーストラリアとホンダファウンデーションは、このような団体の支援を通じ、オーストラリアの新たな世代の明るく健康的な未来のため、サポートにつとめています。



撮影：Claude Ho

中国の活動

本田汽車(中国)有限公司

●恵まれない小学生への支援活動

中国の未来を担う子ども達に教育の機会を提供したいと、従業員から約3万円の募金を集め、2007年3月16日と9月11日に、会社近隣の農村地域にある小学校を訪問。計60名の恵まれない小学生に、一年間の教育費を提供しました。9月26日には、子ども達を工場見学に招待。子ども達は色鮮やかなJAZZ(ジャズ=日本名 フィット)の製造過程に、熱心に見入っていました。



●従業員ボランティアが老人ホームを慰安訪問

2007年10月13日、約20名の従業員ボランティアが広州市にある幸福養老院のお年寄りを訪問し、日用品のプレゼントや掃除活動を実施。また、お年寄りとおしゃべりを楽しみながら交流を深めました。このようなボランティア活動に長期に渡って取り組みながら、地域に貢献しつつ、社会に期待される企業をめざします。



東風本田汽車有限公司

●植林活動

行動で「企業と社会、環境との共生」という企業理念を実践し、その中で地域社会との共生を図ること。これを目標として、毎年3月に東風本田汽車の従業員ボランティアは、武漢経済技術区において植林活動に参加しています。



Hondaの寄付・支援活動

Honda Cカードによる寄付活動

Honda Cカードのチャリティ参加機能として、会員の皆様がカードをご利用になった年間総利用額の0.05%にあたる金額を、Hondaが日本赤十字社と(財)日本ユニセフ協会に寄付しています。2007年度は7,739万円を寄付。これまでの寄付金累計額は、5億8,996万円を超えました。

●寄付実績

年度	寄付金
2005	6,830万円
2006	7,361万円
2007	7,739万円

災害支援

2007年 7月 新潟県中越沖地震に義援金500万円を日本赤十字社へ寄託
現地の要望に基づき車両(ステップワゴン、スーパーカブ)を提供

2007年11月 バングラデシュのサイクロン災害に義援金500万円を日本赤十字社へ寄託

2008年 1月 首都圏大規模災害に備え、埼玉県に投光機付き発電機16台を寄贈

人と社会と共生する労働組合をめざして

本田技研労働組合(本田労組)の活動

4万人を超える組織となった本田労組は、結成40周年を迎えた1992年に「社会貢献基金」を設立。社会貢献活動に対する取り組みを強化しました。

ホンダリピートホットライン(車いす改造ボランティア)

本田労組は全国に9つの支部があり、組合員とともにそれぞれの地域に根ざした活動を展開しています。中でも「リピートホットライン」は、組合員が参加しやすい活動として全支部共通で取り組んでいます。この活動は、車いすマラソン大会への参加をきっかけに、車いすに座り心地の良い自動車のシートを載せてみてはどうだろう、という発想から1993年に始まった活動です。2007年度にはのべ1,062名の組合員がボランティアとして参加し、111台の車いすを寄贈しました。1993年からの累計寄贈台数は、1,800台にも達しています。



ホンダリピートホットライン

●ホンダリピートホットライン活動実績

年度	車いす寄贈台数	ボランティアスタッフ数
2005	128台	1,607名
2006	98台	1,013名
2007	111台	1,062名

車いすマラソン大会へのボランティア参加

1993年から「大分国際車いすマラソン大会」の運営や進行を陰から支えるボランティア活動としてスタート。年々、回数を重ねるごとに募集人数を上回る応募があり、参加した組合員からも高い評価を得ています。1998年には他の大会にも活動を広げました。2007年度は、「大分国際車いすマラソン大会」に10名、「名古屋シティハンディマラソン大会」に10名の組合員が参加。これまでのべ428名が参加しています。

緊急援助と緊急カンパ

大規模な災害等が発生した場合に、社会貢献基金からの緊急援助や、組合員による緊急カンパを行っています。



名古屋シティハンディマラソン大会

財団の活動

(財) 本田財団

本田財団は、現代社会の科学技術の成果を人類の福祉と平和に役立たせ、人間性あふれる文明の創造に寄与することを目的に、1977年、Hondaの創業者・本田宗一郎と実弟・弁二郎の両氏が私財を寄付して設立しました。「人間活動を取り巻く環境全体との調和を図った真の技術——エコテクノロジー」という新しい技術概念を提唱し、その確立と普及のため、国際褒賞「本田賞」の授与、国際シンポジウム・セミナーの開催、YES奨励賞[※]の授与などの事業を行っています。

※YES=Honda Young Engineer and Scientist's Award

《 本田賞 》

2007年の第28回本田賞は、世界初の腹腔鏡下胆嚢摘出手術を行い、内視鏡外科手術の技術革新を行った功績に対し、フランス・リヨンの外科医師、フィリップ・ムレ博士に授与されました。「手術者は、エコシステムである人間の身体に宿る自然の摂理を侵してはならない」という哲学を持つムレ博士は、まさにエコテクノロジーの提唱者です。

《 国際シンポジウム 》

2008年3月、タイ・バンコクにて、国際シンポジウム「アジアにおける革新と起業家精神」を開催しました。日本・タイ両国の産業界、政府、学会それぞれの専門家の集いに、ベトナム、ネパールからの有識者も加わり、「資源と地球環境」など、4つのテーマで2日間に渡り活発な議論が交わされました。

《 YES奨励賞 》

財団創立30周年を記念し、新たな事業として2006年からスタートした「YES奨励賞」は、科学技術分野における将来のリーダー育成をめざしています。初年度にはまずベトナムで展開し、2007年にはインドで開始。今後も主にアジアの学生を対象に事業規模を拡大していく予定です。

この制度は、科学技術分野で優秀な成績を納め、より高いレベルをめざす学生に授与される奨学制度です。受賞者の学生達の今後の活動をさらに支援する継続的なプログラムのユニーク性に対しても、多くの企業や大学から注目を浴びています。



Honda福井社長と握手するムレ博士(左)



表彰を受けるインドの学生

(財) ブレインサイエンス振興財団

脳に関する研究の振興と普及を行うために、1986年11月に設立。生命科学分野における独創的な研究者を称える「塚原仲晃記念賞」の贈呈をはじめ、若手研究者を中心とした支援に力を入れています。

グループ全体の活動一覧

前章までに紹介した活動以外にも、世界各地で
Hondaグループは、さまざまな取り組みを行っています。
この章では、Hondaの販売会社や国内・海外のグループ会社が
2007年度に取り組んだ
社会活動の実績をまとめました。



Together for Tomorrow

<活動分野の詳細>

1. 子ども達の育成支援活動

- 学校授業やスポーツ教室への講師派遣や施設・グラウンドの開放など
- 学校の社会体験やインターンシップ受入れなど
- スポーツ指導・協賛、その他の活動

2. 地球環境を守る活動

- 森林や湖、河川などの保全活動など
- 環境教育・啓発活動、その他の活動

3. 交通安全の教育・普及活動

- 地域の方々を対象とした安全教室開催など
- 学童保護のための交差点立哨指導など
- 交通安全運動への協力・参加、その他の活動

4. 地域に根ざした活動

- お祭りやイベントなどへの寄付・協賛や地域の方々の招待など
- 地域クリーン活動の実施・参加など
- 災害支援
- 盲導犬募金、献血実施、寄付、その他の活動

5. 従業員のボランティア活動を支援する制度

6. 社会貢献活動関連の過去の表彰実績

会社名	活動分野					
	1 育成支援	2 地球環境	3 交通安全	4 地域の活動	5 従業員の活動を支援する制度	6 社会活動関連の表彰実績
ホンダドリーム 明石				●		
ホンダドリーム 飯塚				●		
ホンダドリーム 小樽	●		●	●		

各社ごとに実績のある項目欄に●印がついています。

二輪販売会社 (五十音順)

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
ホンダドリーム 明石				●		
ホンダドリーム 飯塚				●		
ホンダドリーム 小樽	●		●	●		
ホンダドリーム 京都伏見				●		
ホンダドリーム 神戸灘				●		
ホンダドリーム 堺	●			●		
ホンダドリーム 札幌			●	●		
ホンダドリーム 中部	●					
ホンダドリーム 東北	●					
ホンダドリーム 長崎				●		
ホンダドリーム 長野				●	●	
ホンダドリーム 奈良				●		
ホンダドリーム 藤井寺	●		●			
ホンダドリーム 箕面	●			●		

四輪販売会社 (地域順)

Honda Cars 帯広北			●	●		
Honda Cars 札幌			●	●	●	
Honda Cars 札幌中央	●			●		●
Honda Cars 滝川		●				●
Honda Cars 岩手北			●	●		
Honda Cars 二戸		●	●	●		
Honda Cars 迫				●		●
Honda Cars 秋田中央	●			●		●
Honda Cars 潟上	●					
Honda Cars 千秋			●	●		
Honda Cars 鶴岡				●		●
Honda Cars 福島			●			●
Honda Cars 日立南	●	●		●		

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
Honda Cars 栃木中	●					
Honda Cars 桶川	●					
Honda Cars 埼玉中				●		
Honda Cars 狭山	●		●			
Honda Cars 三郷				●		
Honda Cars 野田			●			●
Honda Cars 茂原				●		
Honda Cars 東京中央			●	●		
Honda Cars 横須賀東	●		●	●	●	●
Honda Cars 長岡東				●		
Honda Cars 新潟		●				
Honda Cars 新潟東				●		●
Honda Cars 山梨	●	●		●		
Honda Cars しなの	●	●	●	●		
Honda Cars 信州	●		●	●		
Honda Cars 長野中央				●		
Honda Cars 上市				●		
Honda Cars 北陸	●		●	●	●	●
Honda Cars 加賀				●		
Honda Cars 大垣	●		●	●		●
Honda Cars 岐阜				●		
Honda Cars 富士中央	●	●		●		●
Honda Cars 愛知西				●		
Honda Cars 愛知東	●			●		
Honda Cars 瀬戸		●		●		
Honda Cars 多気			●	●		●
Honda Cars 亀岡	●		●			
Honda Cars 京都	●			●		

四輪販売会社 (地域順)

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
Honda Cars 京都上京	●		●	●		●
Honda Cars 大阪			●	●	●	
Honda Cars 交野			●	●		
Honda Cars 南河内	●					
Honda Cars 北神戸	●			●		
Honda Cars 北姫路				●		●
Honda Cars 南近畿奈良				●		●
Honda Cars 大和奈良				●	●	●
Honda Cars 南近畿和歌山			●	●		
Honda Cars 高梁			●	●		
Honda Cars 三次	●	●		●		
Honda Cars 宇部中央	●			●		
Honda Cars 下関			●			
Honda Cars 下関南	●					
Honda Cars 山口	●	●			●	
Honda Cars 飯山			●	●		●
Honda Cars 東かがわ				●		
Honda Cars 佐伯中央			●	●		
Honda Cars 串間	●	●		●		●
Honda Cars さつま				●		

グループ会社 (五十音順)

(株)アイキテック	●	●		●		●
アクトマタイム(株)	●			●	●	
浅間技研工業(株)	●		●	●	●	●
(株)アツミテック	●	●		●	●	
(株)エイチワン	●	●	●	●	●	
(株)エフ・シー・シー	●	●	●	●		
(株)エム・エス・ディ	●	●		●	●	

グループ会社 (五十音順)

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
オールホンダ販売(株)				●		
金田工業(株)	●	●		●		
菊池プレス工業(株)	●	●		●		●
希望の里ホンダ(株)	●	●		●	●	●
九州ティ・エス(株)		●		●	●	●
九州柳河精機(株)	●			●	●	●
(株)ケーヒン	●	●	●	●	●	
合志技研工業(株)	●	●	●	●	●	
(株)コムルス		●		●		
(株)ジャパンテクノ			●			
(株)ショーワ	●	●	●	●	●	
新日工業(株)	●		●	●		
(株)スチールセンター	●	●		●		
(株)スマレックス		●	●	●		
田中精密工業(株)	●	●		●		●
(株)都筑製作所	●	●	●	●	●	●
ティ・エステック(株)	●	●	●	●	●	●
(株)デボックス				●		
(株)デボックス・エクスプレス		●				
(株)デボックス関西	●		●			
日信工業(株)	●			●	●	
日本プラスト(株)	●	●		●		
(株)ピーエスジー			●	●	●	
(株)ヒロセ精工				●		
(株)フジ工業	●			●		●
(株)ベストテックスクョーエイ				●		
(株)ベストロジ熊本				●		
北海道ホンダ販売(株)			●			

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
ホンダアールアンドデー太陽(株)	●		●	●		
(株)ホンダエレシス	●			●	●	
ホンダエンジニアリング(株)		●		●	●	
ホンダ開発(株)	●	●		●	●	
学校法人ホンダ学園	●	●	●	●	●	●
(株)本田技術研究所		●		●	●	
本田金属技術(株)	●			●	●	●
本田航空(株)	●			●	●	
(株)ホンダコムテック	●	●	●	●		
ホンダ太陽(株)	●		●	●		●
(株)ホンダトレーディング				●		
(株)ホンダモーターサイクルジャパン			●	●	●	●
(株)ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン	●			●	●	
(株)ホンダロジスティクス	●	●	●	●	●	
(株)ホンダロック	●	●	●	●	●	●
(株)丸順	●			●		
水谷精器工業(株)	●		●	●		●
武蔵精密工業(株)	●			●		●
(株)モビリティランド	●		●	●	●	
八千代工業(株)	●	●	●	●	●	
柳河精機(株)	●	●	●	●	●	●
(株)山田製作所	●		●	●		●
(株)レインボーモーターズスクール	●	●	●	●	●	●

海外グループ会社

(アルファベット順)

<北・中米>

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
American Honda Finance Corp.	●	●		●	●	●
American Honda Foundation	●	●				●
American Honda Motor Co., Inc.	●	●	●	●	●	●
Honda Canada Foundation	●					
Honda Canada, Inc.	●	●	●	●	●	●
Honda de Mexico, S.A. DE C.V.	●	●	●	●		
Honda Manufacturing of Alabama, LLC	●	●	●	●	●	●
Honda North America, Inc.	●		●	●	●	
Honda of America Manufacturing Foundation	●					
Honda of America Manufacturing, Inc.	●	●		●	●	●
Honda of South Carolina Manufacturing, Inc.	●	●		●		●
Honda Precision Parts of Georgia, LLC	●	●		●		●
Honda R&D Americas, Inc.	●			●	●	

<南米>

Honda Automoveis do Brasil LTDA.	●		●	●	●	
Honda del Peru S.A.			●			
Honda de Venezuela C.A.	●					
Honda Motor de Argentina S.A.			●	●		
Honda Motor de Chile S.A.			●	●		
Honda South America LTDA.			●	●		
Moto Honda da Amazonia LTDA.	●	●	●	●	●	●

<欧州・中近東・アフリカ>

Honda Access Europe N.V.	●		●	●		
Honda Austria G.m.b.H.		●		●		
Honda Automobili Italia S.p.A.		●		●	●	
Honda Automoviles Espana S.A.	●			●	●	●
Honda Bank G.m.b.H.	●			●		
Honda Belgium N.V.	●			●		

	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
Honda Europe N.V.	●			●		
Honda Finance Europe PLC				●		
Honda Hungary KFT.			●			
Honda Italia Industriale S.p.A.	●		●	●		
Honda Motor Europe Ltd. U.K. Division	●		●	●		
Honda Motor Europe (North) G.m.b.H.	●	●	●	●		
Honda Nederland B.V.	●			●		
Honda of the U.K. Manufacturing Ltd.	●			●		
Honda Portugal S.A.	●	●	●	●		
Honda R&D Europe (Deutschland) G.m.b.H.	●			●		
Honda R&D Europe (U.K.) Ltd.				●		
Honda Turkiye A.S.	●		●			
Honda Ukraina LLC		●		●		●
Montesa Honda S.A.				●		

<アジア・大洋州>

A.P. Honda Co., Ltd.	●		●			
Asian Honda Motor Co., Ltd.	●	●		●		
Atlas Honda Ltd.	●		●	●	●	
Bukit Batok Driving Centre Ltd.			●			●
Hero Honda Motors Ltd.	●			●		
HICOM-Honda Manufacturing Malaysia SDN BHD.		●	●	●	●	
Honda Atlas Cars (Pakistan) Ltd.	●			●		
Honda Australia Motorcycle and Power Equipment Pty., Ltd.	●			●	●	
Honda Australia Pty., Ltd.	●	●		●		●
Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd.	●	●		●	●	
Honda Cars Philippines Inc.	●	●	●	●	●	●
Honda Korea Co., Ltd.	●	●		●		
Honda Malaysia SDN BHD.	●	●	●	●		

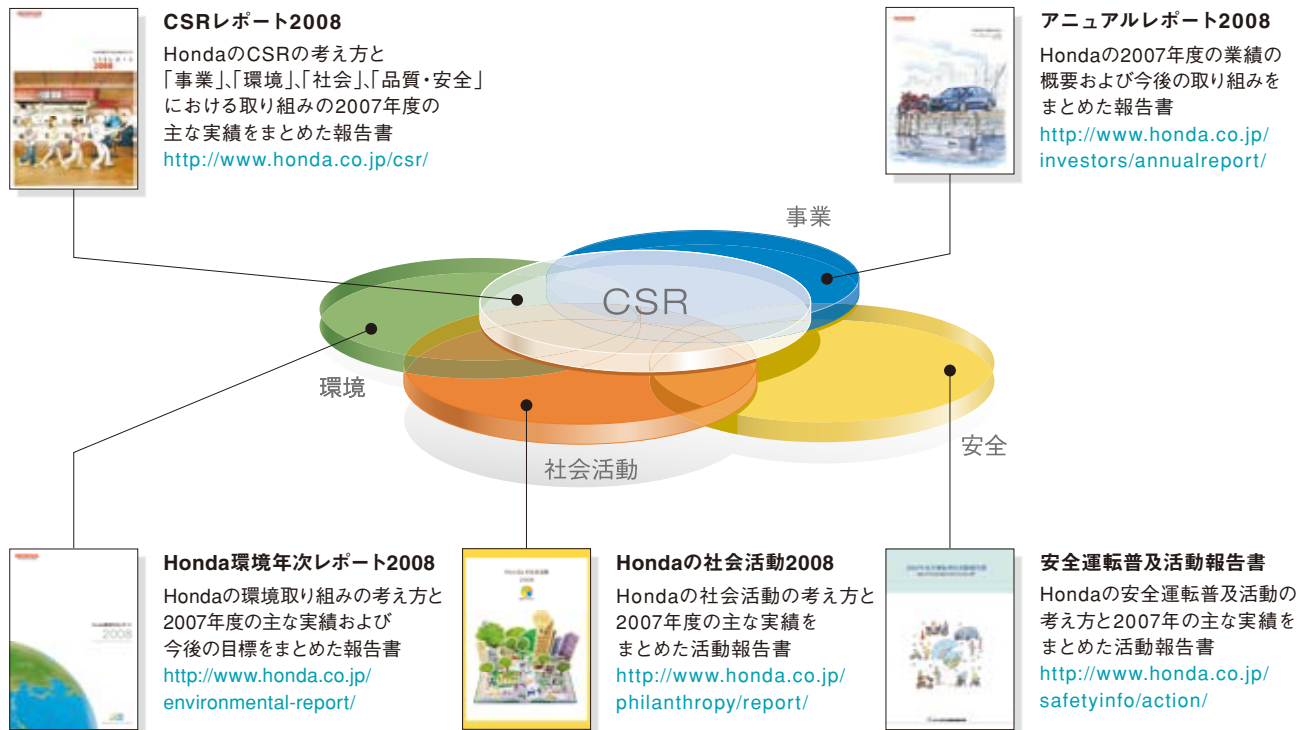
	育成支援	地球環境	交通安全	地域の活動	従業員の活動を支援する制度	社会活動関連の表彰実績
Honda Motorcycle and Scooter India (Private) Ltd.	●		●	●	●	
Honda New Zealand Ltd.	●	●		●	●	●
Honda Philippines Inc.	●	●	●	●	●	●
Honda Siel Cars India Ltd.	●	●	●	●	●	
Honda Siel Power Products Ltd.	●	●		●		
Honda Taiwan Co., Ltd.		●				
Honda Taiwan Motor Co., Ltd.	●	●	●	●		
Honda Vietnam Co., Ltd.	●	●	●	●	●	
P.T. Honda Prospect Motor	●	●				●
Singapore Safety Driving Centre Ltd.			●			
Thai Honda Manufacturing Co., Ltd.	●	●		●	●	

<中国>

東風本田汽車有限公司	●	●	●	●		●
東風本田汽車零部件有限公司	●	●		●	●	
東風本田発動機有限公司	●			●		●
広州本田汽車有限公司	●	●	●	●		
本田汽車(中国)有限公司	●	●		●	●	●
本田汽車零部件製造有限公司	●				●	
本田生産技術(中国)有限公司				●		
福建閩東本田発電機組有限公司		●				
本田技研工業(中国)投資有限公司	●	●		●		
本田摩托車研究所有限公司		●		●		
嘉陵-本田発動機有限公司				●	●	●
五羊-本田摩托(広州)有限公司	●	●	●	●		

Hondaの主な情報公開について

Hondaでは、年次の主な実績報告として、下に示す冊子を発行し、インターネットを通じて公開しています。



Hondaはこれらの報告書やレポートを通じて、年次の取り組み実績を皆様に評価していただくとともに、皆様とのコミュニケーションをはかる媒体として活用し、Hondaの各領域での活動をさらに向上させていきたいと考えています。なお、Hondaの主な開示情報は下に示すWebで公開しています。

Hondaの主な情報開示サイト

●会社情報
<http://www.honda.co.jp/corporate/>

●CSR
<http://www.honda.co.jp/csr/>

●投資家情報
<http://www.honda.co.jp/investors/>

●環境
<http://www.honda.co.jp/environment/>

●社会活動
<http://www.honda.co.jp/philanthropy/>

●安全
<http://www.honda.co.jp/safety/>

●安全運転普及活動
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

Hondaの社会活動についてのお問い合わせ・ご意見は右記までお願いします。

本田技研工業株式会社 社会活動推進室
TEL:03-5412-1260
<http://www.honda.co.jp/philanthropy/toiawase/>

「Hondaの社会活動2008」

発行日 2008年8月
発行 本田技研工業株式会社 社会活動推進室
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL:03-5412-1260 FAX:03-5412-1587
<http://www.honda.co.jp/philanthropy/>
発行責任者 小林俊哉

※本レポートは2007年4月～2008年3月までの活動実績を掲載しています。

HONDA

The Power of Dreams



本冊子は、不要となったHondaの旧カタログ等を製紙原料として配合したHonda独自の循環紙を使用しています。インキは植物油100%の「大豆油インキ」(VOC成分ゼロ)を使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。